



高大連携プログラム

～高校と大学の接続を目指して～

2026年度



Hokusei Gakuen University

北星学園大学



北星学園大学 高大連携プログラム

高校や大学は、少子高齢社会という大きな社会変動の中で揺れ動いています。国公立か私立かを問わず、競争と選別という時代の空気の中で、各学校はその特色をどのように打ち出すかを迫られ、多様な試みがなされています。特に注目され、普及してきているものに、「高大連携」の試みがあります。この考え方には、「高大連携」・「高大接続」・「高大一貫」といった考え方が含まれています。中高一貫の考え方を加えれば、6・3・3・4制をもっと流動的・連続的に捉えようとするものになります。

社会に開かれた大学を標榜する北星学園大学は、この高大連携の考え方を「高大連携プログラム」と名づけており、ここには次の二つの理念が含まれています。

一つ目は、「社会に開かれた大学」としての社会貢献の考え方です。大学は、その持てる「知と技」を積極的に社会に提供していくことによって社会的責任を果たすことが期待されています。

二つ目は、次代の大学生たる高校生に、「学び・研究する」ことの喜びの予感を提供することによって、自己の力と志向に基づいた大学の選択が可能になり、大学の教育との相乗的な効果を期待できます。

以上の二つの理念を掲げる「高大連携プログラム」へお誘いいたします。

1 高大ブリッジ講義(出張講義)

大学進学についての選択は、多くの人にとって、社会へ出る前の「学びの成就」の機会を手にするものであり、かつ、社会における自らの活動を基礎づける「知と技」を選び取ることも意味していると考えられます。

そうした大きな人生の選択を、カタログの中の数字だけで決めてしまってよいものなのでしょうか。少なくとも4年という短くはない時間をかけて自らの学びを成就させることとなる「大学」とは、果たしてどういうところなのか。実際に施設・設備を自らの目で確かめ、そこで提供されるプログラムを体験し、既にそこで学びを進めている者の話を聞く、そうした機会も、北星学園大学は積極的に提供してまいりました。

高大ブリッジ講義(出張講義)は、北星学園大学の教員が高校の教室に赴いて、高校生の皆様に、大学での「学び」とはどのようなものなのか、大学にはいかなる「知と技」があるのかに触れていただく機会を提供しようとするものです。この高大ブリッジ講義(出張講義)は、高校生の皆様が大学での学びへの憧れを育み、恐れを払う一助となるでしょう。

★ お申込み方法 … 申込用紙(27頁)に希望の講義をご記入の上、FAXにてお申し込みください。

申込締切: 講義希望日の1ヶ月前

申込用紙: 複数の講義をお申込みの場合は、お手数ですが、申込用紙(27頁)をコピーしてご利用ください。

- 留意事項:
- ①ご希望の日時について、担当教員との調整が必要な場合がございます。ご了承ください。
 - ②担当教員の職務の都合上、ご希望に沿えない場合もございますので、複数の教員についてご希望をお示しいただければ幸いです。
 - ③派遣に係る費用は、全て北星学園大学が負担します。
 - ④毎週水曜日午後は、本学校務(会議等)を原則として優先させていただきますので、派遣できない場合もございます。
 - ⑤ゼミ形式の授業をご希望される場合、申し込みの際にその旨お知らせください。

※なお、ゼミ形式の場合、内容が変更となる可能性がございますので、ご承知おきください。

ゼミ(Seminar)とは? —— 少人数・対話形式(講義を聴くだけの受身の授業ではなく、参加・実践型の授業)

大学の授業は主に講義形式とゼミ形式に分けられます。

講義形式は、一般的に高校の授業と同じように教員が主導して授業が進み、学生側から見れば話を聴く割合が高い形式です。しかし、ゼミ形式では、講義形式に比べると、学生の人数が少なく設定され、あるテーマについてより深い知識を得るための意見交換や討論が中心となります。そのため、2~5人のグループで調べ、話し合いをした結果に対して、他の学生が質問や意見を出し合って学習することも多くみられます。最後には、いろいろな側面から教員がアドバイスをを行いますので、一つのテーマについてより深く理解し、そして広がりのある知識を得ることができるようになります。

※1. 「イノベーション・サステナビリティ」の講義は、2026年4月新設の国際学部グローバル・イノベーション学科に所属する教員が担当します。

※2. 「情報」の講義は、2027年4月新設予定の情報科学部情報科学科(仮称・設置構想中)に所属予定の教員が担当します(講義番号177及び178を除く)。

「高大連携プログラム」に関する問い合わせ・申し込み先

入試課

TEL (011) 891-2731 (代表)

FAX (011) 894-8383

MAIL nyushi@hokusei.ac.jp

心理・コミュニケーション

講義番号	テーマ
1	スポーツメンタルトレーニング(実力発揮の方法)
2	心理学は世界を救えるか? ~心理主義化する社会を考える~
3	心理学から映画を見よう ~物語を支えるキャラクターたち~
4	高齢者ケアの心理学 ~高齢者心理における心理学の役割~
5	災害支援の心理学 ~災害後のPTSDとその治療~
6	「病い」「疾患」「病気」の違いは? ~医療コミュニケーション入門~
7	「自分」と「他者」を知るコミュニケーション技法
8	“コミュカ”を科学する ~ヒューマン・エラーの認知心理学からみたコミュニケーション能力とは?~
9	“コミュカ”を科学する ~音楽心理学からみたコミュニケーションとは?~
10	他者を理解する ~コミュニケーションの基盤~
11	「心」とは何か? ~「心」の由来を考える~
12	自信を育てる心理学
13	自分も相手も尊重するコミュニケーションを考えよう
14	「聴く」コミュニケーション
15	心理検査とコミュニケーション
16	大学の講義「メディアコミュニケーション」を体験してみよう
17	デジタルシチズンシップとクリティカルリーディング
18	SGE実践! 対話で育む自己理解と他者理解
19	「こころ」と「からだ」の心理学
20	心理のおしごと ~心理専門職について知ろう~
21	心へのアプローチ ~大学で学ぶ心理学~
22	信じる心を科学する
23	心理療法体験 ~描画療法とリラクゼーション法でストレス解消!~
24	友人関係の心理学
25	見えてる?見えてない? 普段気づかない心の仕組みを解き明かす
26	見せ方ひとつでこんなに違う! ビジュアルコミュニケーションの基本

担当者名
袁内 豊
田辺 毅彦
大島寿美子
後藤 靖宏
石川 悟
柿原久仁佳
妹尾 克利
山本 耕太
牧田 浩一
眞嶋 良全
佐藤 祐基
村井 史香
藤木 晶子
川部 大輔

語学・文化

27	異文化コミュニケーション入門
28	英語の発音法
29	アメリカ演劇の楽しみ ~ブロードウェイミュージカルとアメリカ文化~
30	外国語(英語)習得を“科学”する ~習得の個人差はなぜ生まれるのか~
31	「公園で走る」と「公園を走る」はどう違う? ~外国人に対する日本語教育入門~
32	世界で使われている英語とは? ~「共通語としての英語」という見方~
33	「若い人ほど外国語習得ははやい」は本当? ~外国語学習の「神話」に迫る~
34	英語を話せる力とは
35	英語を英語らしく話そう!
36	色々な英語の教え方
37	いろいろな英語の教え方・学び方
38	グローバルゼーションと市民社会の役割
39	「マザー・グースの唄」を楽しみましょう!
40	Culture on the Internet
41	第二言語習得研究に基づく英語学習法
42	観光ホスピタリティ産業で英語を使って働く!
43	語彙の重要性と効果的な語彙力向上法を探る
44	言語の科学的研究
45	中国語に親しもう!
46	中国古典文学<萌え>の世界
47	中国の妖怪・不思議な話
48	世界一周ことばの旅
49	日本語と外国語はどこが違う?
50	確実に伝えるための説明の技術
51	“伝わらない”は誰のせい? ことばのバリアフリーを考える
52	日本語ウォッチングで街を行こう
53	考える/分かりあう ための論理トレーニング
54	退屈な芸術? : 古い彫刻を見る
55	くらべて観れば: 西洋建築と日本建築の鑑賞法
56	モンゴル遊牧民のスマホ利用 ~文化人類学で学ぶ移動~

長谷川典子
J.W.ラケット
高橋 克依
高野 照司
柳町 智治
江口 均
中地 美枝
島田 桂子
R.トムソン
沢谷 佑輔
森越 京子
H.トムソン
林 晋太郎
山本 範子
松浦 年男
田村 早苗
遠藤 太郎
風戸 真理

福祉・健康

57	豊かな国でなぜ子供の貧困率が高いのか
58	「環境問題と社会福祉」
59	「現代社会とジェンダー」
60	「世代間不公平」は(なぜ)問題か
61	戦争の関連で社会福祉ができること
62	日本の医療制度~どうなっているの?これからどうなるの?
63	社会と社会福祉
64	社会福祉学への招待 ~理想の暮らしと社会の姿を考える科学~
65	幸福は何によって決まるのか ~世界幸福度ランキングを手がかりに~
66	多文化共生と社会福祉 ~日本の現在と未来~
67	現代における幸福(well-being)論 ~SDGsと社会福祉から考える~
68	少子化の理由はコレ!じゃあどうすれば?
69	福祉は“恥ずかしい”?
70	現代日本を蝕む貧困
71	ソーシャルワーカーの専門性の基礎を体験しよう。
72	地域をデザインするとは? ~地域デザインとウェルビーイング~
73	現代における貧困とSDGsを考えてみる
74	障害者福祉の考え方
75	こころの病(精神疾患)を理解する
76	少子高齢化×人口減少=日本の将来 ~どんな地域になるの?どう生活するの?~
77	体力向上と日常生活習慣
78	ケアすること されること
79	子どもは誰のもの?

K.U.ネンシュティール
安部 雅仁
佐橋 克彦
伊藤新一郎
松岡 是伸
田中耕一郎
永井 順子
畑 亮輔
星野 宏司
藤原 里佐

経済・経営

80	サキヨミの経済学 ~ゲーム理論と美人投票~
81	なぜ、いま、文化経済学なのか?
82	経済学史入門
83	牛丼とハンバーガー、どちらが大好き ~経営と会計の味な話~
84	あなたの知らない世界 ~職業と会計~
85	決算書を読んでみよう
86	経済学と経営学、何が違うの?
87	コンビニを通して、購買心理と店内の工夫を探る
88	コンビニ大解剖! ~商品と歴史について探る~
89	人の移動とお店の立地・数の関係について探る
90	私たちの身の回りに広がるユニバーサルデザイン
91	お菓子プロジェクトから探る企画プロセスの実際

勝村 務
楠木 敦
大原 昌明
鈴木 克典

Index

経済・経営

講義番号	テ	マ
92	ブランドの生き方：人々を幸せにする商品開発	
93	「ソーシャルメディア」と消費者行動、マーケティング	
94	消費者の「生きられた経験」とブランド・マーケティング	
95	消費者インサイトが生み出すマーケティングの効果	
96	「H2Hマーケティング」とブランド・マネジメント	
97	サービス科学と情報技術	
98	貿易はなぜ行われる？	
99	「経済史」への招待 ～北海道の海や山を通して～	
100	未来をつくる資産形成：高校生から始めるNISAとお金の学び	
101	お金の流れを知ろう！「金融政策のしくみ」入門	
102	「お金」になりうるモノとは	
103	もしみんなが「ファイナンシャル・プランナー」になったら	
104	日本経済は、アメリカとどう向き合ってきたのか	
105	日本の経済学者たち	
106	日本の社会保障（主に年金、医療、介護）を経済から考えてみよう！	
107	高齢社会の福祉を経済の視点から学ぶ意義	
108	統計学はどう使われている？（社会の中の統計学）	
109	経済学で農業と食料について考えてみよう	
110	インフレーションと日本経済	
111	環境保全と経済発展の両立は可能か？	

担当者名
韓 文熙
林 秀彦
金野 雄五
太田 仙一
秋森 弘
南ホ Chol
山本 慎平
安部 雅仁
佐藤 和夫
渡邊 稔
藤井 康平

法律

112	契約・法・北方領土
113	犬の権利と猫の義務
114	あなたは覗かれている ～プライバシーの危機～
115	デザイナー・ベビー ～魔法か、それとも悪魔の技術か？～
116	家族における平等
117	18歳の選挙権
118	A I と法・倫理 ～私たちはA I とどうつき合うか～
119	拷問はなぜ絶対に禁止されるのか ～国際人権法入門～
120	売買契約の考え方 ～ローマ法編
121	お金の貸し借りについて ～日常編
122	親子とは何か ～親子法のヒューマニズム
123	災害復興法学のすすめ
124	卒業後の人生・生活を考えてみましょう
125	契約法務入門
126	在学契約で考える学ぶことの意義
127	ネゴシエーションを体験しよう
128	お金がない！
129	高校世界史から法律学への架け橋
130	法は美しい街づくりの手助けになるのか？

篠田 優
岩本 一郎
足立 清人
長屋 幸世
竹田 恒規

国際関係

131	平和構築とは何か
132	世界の子どもの現状 ～私たちに何ができるのだろうか～
133	アメリカやイギリスの大学での学び方 ～「英語を学ぶこと」と「英語で学ぶこと」～
134	平和学入門 ～より平和な世界を「探究」する～
135	チョコレートが食べられなくなる日:世界的なカカオ豆価格の値上がりとインドネシアの生産農家から考える
136	開発途上国の経済開発と障がいを考える

野本 啓介
片岡 徹
浦野真理子

イノベーション・サステナビリティ

137	ホスピタリティ産業とイノベーション
138	旅行者として、サステナブル・ツーリズムについて考える
139	クロスボーダー社会における外国語ガイドの役割
140	世界とつながる仕事：通訳者が支えるグローバル社会
141	Surviving and Thriving when Studying Abroad
142	Innovation and Life in New Zealand
143	Indigenous Perspectives on Sustainability and the SDGs
144	空き家と文化財のイノベーション
145	Internet Marketing Basics
146	ソーシャル・イノベーションの基礎
147	プロジェクト型海外研修への誘い
148	ファッション×教育で社会を変える！ CLOAK Project
149	海外インターンシップの魅力(オンライン)
150	オンライン国際共修(COIL)で世界とつながろう
151	Fishburnersの魅力と活用方法

森越 京子
田中 直子
M.コッター
遠藤 太郎
R.トムソン
西原 明希

教育

152	教育学入門 ～子どもから大人まで、人の育ちを「探究」する学問の魅力とは～
153	紛争解決学入門 ～身近な人間関係から国際紛争までを「探究」する学問の魅力とは～
154	地球的に考えて地域で行動する(Think Globally, Act Locally)ために～高校生ができることとは～
155	「大学の学び」の基礎となる「高校の学び」～知識を身につける大切さ～
156	アメリカの小学校では、子どもたちはどのように学んでいるのだろうか～ English LanguageとMathを例として～
157	国連の創設に関わったAndrew Cordierが伝えた道とは
158	大学の講義「国際教育論」を経験してみよう
159	未来を創る大切な仕事である学校教員の魅力とは
160	アメリカの「国際学」のテキストから世界情勢を探究してみよう
161	北星学園大学の国際教育プログラムの紹介とその魅力とは
162	高校生にとって「問い」を立てて「探究」をする意義とは
163	多文化共生社会を「探究」する
164	大学で学ぶ意味：社会科学をとおして社会の仕組み・つながりを理解する
165	大学教育とは何か？

片岡 徹
野本 啓介
楠木 敦

情報

166	コンビニにおける情報収集と活用方法 ～POSデータ分析によるお店づくりへの工夫～
167	情報まちづくりについて考える ～情報化社会の進展と私たちの生活行動の変化～
168	テクノロジーは学校をどう変えるのか？ ～「学び」と教育の未来～
169	ソーシャルメディアは私たちの世界をどう変えたのか？ ～AI時代の情報との向き合い方～
170	AI (人工知能)の「心理学」
171	これからのICTリテラシーを考える
172	人は世界を「そのまま」見ていない
173	VR酔いのひみつ：ヒトの感覚特性を知ることで技術はよくなる
174	多数決の崩壊条件 ～コンドルセの陪審定理における独立性仮定の破れと集団正答率の相転移～
175	感情状態の幾何学 ～アフェクト空間上の距離構造と基底分解～
176	確率変数としての人間 ～状態空間・観測モデル・ベイズ更新による人間記述の形式化～
177	コンピュータ動作の仕組み
178	情報セキュリティ入門

鈴木 克典
金子 大輔
眞嶋 良全
藤木 晶子
小野原彩香
佐藤 友暁

その他

179	困難を乗り越えて生きること ～がん体験者が教えてくれるいのちと人生～
-----	------------------------------------

大島寿美子

★ 講義の展開について

- ①講義は45～50分程度を予定しておりますが、とくにご希望があればお知らせください。
- ②1回完結の講義だけではなく、複数回にわたって展開するもの、オムニバス形式のものなどについて、ご希望があればご相談ください。
- ③受講人数には原則制限がなく、少人数でも承りますが、講義の内容によってはお引き受けが難しい場合がありますので事前にご相談ください。
- ④講義の内容や、実施形態などについてご希望があれば、ぜひお知らせください。
- ⑤掲載されていないテーマにつきましても、ご希望があればご相談ください。
- ⑥講義終了後、受講生の皆様の感想をお知らせいただければ幸いです。

心理・コミュニケーション

1 スポーツメンタルトレーニング (実力発揮の方法)

藁内 豊 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

スポーツ場面に限らず、パフォーマンスを最大限に発揮するには自分自身の精神状態をコントロールすることが必要です。この講義では、パフォーマンスの発揮に関連する心理的要因と対処について、特にプレッシャーとリラクスの観点から説明します。また、プレッシャーやリラクスのコントロール方法について、スポーツメンタルトレーニングの技法を紹介しながら、実際に体験してみます。

2 心理学は世界を救えるか？ ～心理主義化する社会を考える～

田辺 毅彦 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

ご存知のように、最近では、心理テストなどを使った自己診断や、さまざまな心のトラブルをめぐるTVドラマや映画などに関心が集まっています。そのせいか、カウンセラーなどを始めとする心理臨床職は人気が高い職業となっていて、「トラウマ」や「PTSD」といった言葉は日常会話の中でも普通に使われるようになってきました。でも、このように、何でもかんでも心理学的に社会や人間を理解して、心理学的知識を使えば、世の中はよくなるのでしょうか。我々は幸せになれるのでしょうか。心理学のもたらしたさまざまな問題を考え、その知識をうまく使う方法について考え直してみたいと思います。

3 心理学から映画を見よう ～物語を支えるキャラクターたち～

田辺 毅彦 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

毎年、数多くの映画が公開されていますが、人間ドラマだけでなく、アクション、SF、アニメなどさまざまな作品の物語世界を、心理学から読み解いていくと、ふだんと違った楽しみ方ができ、これまで気づかなかった人間関係の視点が得られるかもしれません。具体的には「スターウォーズ」や「鬼滅の刃」といった人気作品や少しマイナーな映画作品も紹介しながら、これらの作品を題材にして、物語と登場人物たちの相互の役割などを通して、映画の中で繰り広げられる心理学的宇宙について分析し、また、この知識が日常生活へも応用できないか、一緒に考えてみたいと思います。

4

高齢者ケアの心理学

～高齢者心理における心理学の役割～

田辺 毅彦 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

日本では、2020年には高齢化率28.8%を超え、超高齢社会を迎えました。その間、高齢者を支援するさまざまな施設が数多く作られるようになってきましたが、年を取って、身体が不自由になったり、認知症が始まったりしても、若くて健康な世代にとっては、その身体的な不自由さや心理的な不安がなかなか理解できないものです。この講義においては、高齢者福祉の現状を紹介する中で、高齢者をケアするために心理学に何ができるのか、どうしたら、施設の利用者だけでなく、現場で働く介護スタッフがより快適に過ごすことができるのか、みなさんと共に考えていきたいと思います。

5

災害支援の心理学

～災害後のPTSDとその治療～

田辺 毅彦 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

2011年に未曾有の被害を出した東日本大震災では、東北地域を始めとする広範な地域において地震や津波だけではなく、原発事故による放射能被害も含め、未だに十分な復旧ができていないのが現状です。その後も、北海道胆振東部地震(2018年)があり、2019年からは全世界で新型コロナウイルス感染拡大によるさまざまな被害が続きました。それでも、人類はこれまで数多くの自然災害を経験してきました。その中で、被災した人々を襲うPTSDを始めとする心理的な問題とはどのようなものなのか、このような問題を克服するためにはどうしたらよいのかを考えてみたいと思います。

6

「病い」「疾患」「病気」の違いは？

～医療コミュニケーション入門～

大島 寿美子 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

「病い」「疾患」「病気」はどこが違うのでしょうか？この講義では医療コミュニケーションの立場から、患者・医療者関係や、患者の世界・医療者の世界、医療と文化について考えます。

7

「自分」と「他者」を知る コミュニケーション技法

大島 寿美子 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

私たちは自分のことを知っているようで知りません。理解しているようで理解しておらず、大事にしているようで大事にしていません。では、自分のことを知り、理解し、大事にするとはどういうことでしょうか。実はそれは他者を知り、理解し、大事にすると同じことなのです。他者とのコミュニケーションの中で自分を知り他者を知る方法を、講義と実習を通して学んでみましょう。

8

“コミュカ”を科学する

～ヒューマン・エラーの認知心理学からみたコミュニケーション能力とは?～

後藤 靖宏 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

「先生について“お父さん”と呼びかけてしまった」、「『ごめんね』と打とうとして『ごめんね』と偉そうなLINEになってしまった」、「スマホだと思ってテレビのリモコンを持ってきてしまった」etc...

誰にでもあるこのような体験は、実は「ヒューマン・エラー」と呼ばれる心理学の重要な研究テーマです。この程度なら笑い話で済みますが、人間関係や生死に関わるような問題となると、ことは重大です。

この講義では、このところとみにその重要性が認識されてきた“コミュニケーション能力”について、ヒューマン・エラーの認知心理学の視点から考えてみます。ネットやスマホの発達で急速にその形が変わってきたと言われる「コミュニケーション」について知り、友達や親子、恋人、そして自分自身を理解する一助にしましょう。

9

“コミュカ”を科学する

～音楽心理学からみたコミュニケーションとは～

後藤 靖宏 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

朝起きてテレビをつけ、通学中にiPhoneを聞き、授業が終わったらカラオケに行って、休日には好きなアーティストのライブを楽しむ…。このように考えてみると、私たちの日常生活には音楽が溢れていることに気づきます。あまりにも当たり前なことなので普段あまり意識しませんが、意識しないからこそ、音楽との関わり方を知ることが重要なのです。

“コミュカ”について科学的に考えるとき、音楽とのこうした関わりも重要な要素になってきます。

音楽を心理学的に捉えることで、いかに私たちが音楽によるコミュニケーションに助けられているかが分かるでしょう。なぜ音楽に好き嫌いがあるのか、どうすればイベントや映像作品で音楽を効果的に使えるようになるのか、勉強に音楽を有効活用するには?等々、面白いテーマにつながる「音楽とコミュニケーション」について考えてみましょう。

10

他者を理解する

～コミュニケーションの基盤～

石川 悟 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

皆さんが何気なく使っている「人間」という言葉には、ヒトという動物が生きていく状況が良く表されています。「人」の「間」で生活する私達は、他者なしでは生きることができません。一方で助けとなるはずの他者が、私達に苦しみをもたらすこともあります。そんな他者とのやり取りには、他者を理解する能力が不可欠です。

相手とやり取りを重ねていく場面において、他者を理解するとはどのようなことなのか、心理学の中で明らかになっていることを紹介しながら、他者とのつきあい方/向き合い方を考えてみたいと思います。

11

「心」とは何か?

～「心」の由来を考える～

石川 悟 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

私達はいつも「心」を感じながら日常生活を送っています。では、この「心」と呼ばれるもの、呼んでいるものの正体は何でしょうか? 「心」の存在を実感するのは特にどんなときでしょう? 見ることも触ることも難しい「心」ですが、でも確かに「在る」と感じられる瞬間があります。

この講義では、「心」の存在が実感できる状況を紐解きながら、私達が普段何気なく感じている「心」とは何か考えたいと思います。同時にヒト以外の生き物にも目を向けて、この「心」がどのように私達ヒトのもとにやってきたのかについても考えを広げていきます。

12

自信を育てる心理学

柿原 久仁佳 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

皆さんは、自信をもてることがありますか? 人はどのようにして自信をもてるようになるのでしょうか。自信がある子どもと自信がない子どもの違いはどのようなことでしょうか。子どもの力を伸ばすには、どのようにしていくことが大切なのでしょうか。

心理学の実験を紹介しながら、自信を育てていくためにはどのようにしていくことが望ましいのか、一緒に考えてみたいと思います。

13

自分も相手も尊重する コミュニケーションを考えよう

柿原 久仁佳 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

この講義では、「アサーティブ」なコミュニケーションについて学びます。相手を尊重しながら、自分の気持ちを伝え、お互いを尊重するコミュニケーション方法を身につけることで、見えてくるものが変わってくるかもしれません。アサーティブなコミュニケーションのトレーニングが必要とされるようになった歴史や、現在の活用状況も合わせて学びます。

14

「聴く」コミュニケーション

柿原 久仁佳 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

これまで、誰かに話をしている時に、「話しやすい」相手だと感じたことはありませんか? コミュニケーションは、情報を発信することに重点をおかれがちですが、「聴く」ことも大切なコミュニケーションです。どのような聴く姿勢であると、より良いコミュニケーションにつながるのでしょうか。

この講義では、演習を通して、「聴く」姿勢の大切さを学びます。

15

心理検査とコミュニケーション

柿原 久仁佳 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

心理検査(心理テスト)をしたことがありますか? この講義では、心理学や心理検査についての概略を説明した後、簡単な心理検査をもとに、自分はどのようなタイプなのかを考えます。

そして、他者との交流にはどのようなパターンがあるのかを学びながら、自分の他者との交流パターンには、どのような特徴があるのか、どのようにしていくとより良いコミュニケーションになるのかを考え、自分についての理解を深めていきます。

16

大学の講義「メディアコミュニケーション」を体験してみよう

妹尾 克利 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

私たちは日々、テレビや SNS、動画配信サービスなど、さまざまなメディアに囲まれて暮らしています。この講座ではメディアの歴史の変遷を振り返り、マーシャル・マクルーハンの理論をもとにメディアの本質に迫っていきます。そして、青少年の AI の利用実態を心理学的な観点から調査した論文を読み解きながら、AI 時代におけるメディア環境の変化や、その可能性と課題について考察します。

カメラ機能付きの端末またはスマートフォンを使用したグループワークを行います。

20

心理のおしごと

～心理専門職について知ろう～

牧田 浩一 (社会福祉学部心理学科教授)

本講義は、“大学で心理学を学んでみたい”、“公認心理師や臨床心理士の資格を取って心理専門職に就きたい”という高校生の疑問に答える内容となっています。小中学校や特別支援学校のスクールカウンセラー、虐待を受けた子どもへの心のケアなど、講師が経験した心理の“おしごと”から、どうしたら心理専門職になれるのか、心理専門職になるために知っておくべきことなど、心理学に関心のある高校生に知ってもらいたい心理専門職の基本知識をお話します。

17

デジタルシチズンシップとクリティカルリーディング

妹尾 克利 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

学習は本来、社会的相互作用を通じて進んでいきます。この講義では、インターネット上での適切なコミュニケーションや情報発信の責任を理解する「デジタルシチズンシップ」について学んだあと、小グループによる課題解決型ワークショップによって、メンバー同士で協力し合いながら学習心理学の理論の一つである発達最近接領域 (ZPD) を実践的に体験します。

カメラ機能付きの端末またはスマートフォンを使用したグループワークを行います。

21

心へのアプローチ

～大学で学ぶ心理学～

牧田 浩一 (社会福祉学部心理学科教授)

心は目にも見えないし、形があるものでもありません。そのような心をどのようにしたら知ることができるのでしょうか。

「心理学」は、学問としての歴史は他の学問領域に比べて新しい学問です。今日の「心理学」は、19世紀後半から始まりました。同時に2つの流れが生まれました。心を「物理学」を模範にして捉えようとした流れと心を病んだ患者さんへの実際的な手助けから生まれた流れです。

本講義では、「心理学」がどのようにして、目にも見えない形もない「こころ」を捉えようとしたのかをテーマとしたいと考えています。

18

SGE実践! 対話で育む自己理解と他者理解

妹尾 克利 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

この講義は、構成的グループエンカウンター (SGE) を通じて、自己理解や他者とのつながりを深める体験型の講義です。SGE は、参加者同士の対話やアクティビティを通じて、感情の共有や自己表現を促進し、チームワークやコミュニケーション能力を高める教育手法です。普段意識しない自分の価値観や考え方を見つめ直し、他者をより深く理解することで、より豊かな人間関係を築くヒントを探ります。

22

信じる心を科学する

眞嶋 良全 (社会福祉学部心理学科教授)

私たちは、日々いろいろなものを信じたり、あるいは逆に疑いながら生活を送っています。何でもかんでも疑ってかかるのは良くありませんが、一方で、何の疑いもたずにすぐ信じる、ということは騙されやすいということであり、詐欺にひっかかるなどの経済・心理的損失に繋がる可能性を秘めています。

この講義では、人はなぜ、どのように信じるのかについての心の仕組みを、具体例を交えながら考えてみたいと思います。

19

「こころ」と「からだ」の心理学

山本 耕太 (文学部心理・応用コミュニケーション学科専任講師)

私たちは、生まれてから色々なものに触れ、感じて、「こころ」と「からだ」を育ててきました。友人や家族とのコミュニケーションの問題や、日々の生活や勉強の悩みなど、見えにくい私たちの「こころ」の問題は、実は「からだ」を通して見ることで見え方が変わったりすることがあります。なぜなら、これらの活動は全て、みなさんの「からだ」や「運動」を通して行われるからです。その面白さを体験しながら、私たちの「こころ」と「からだ」の仕組みを一緒に考えてみましょう。

23

心理療法体験

～描画療法とリラクゼーション法でストレス解消!～

佐藤 祐基 (社会福祉学部心理学科准教授)

スクールカウンセリングや心理相談室の現場では、どのような心理療法が行われているのでしょうか。

この講義では、一般には、知られることのない心理療法の世界を体験してもらいます。子どもから大人まで楽しめる「スクイッブル法」という描画療法と、身体を使った「筋弛緩法」というリラクゼーション法を実施します。心理療法の前後に、ストレスの得点を測定して、心理療法の効果について実験的に検証してみたいと思います。

24

友人関係の心理学

村井 史香 (社会福祉学部心理学専任講師)

思春期は、親や先生との関係に加え、友人関係が特に重要になる時期です。気の合う友人との交流は楽しく、不安や悩みを共有することで心の安定にもつながります。一方で、友人からどう思われるかが気になったり、友人グループから外れることを恐れたりすることもあるでしょう。時には、「友人とは何だろう…」と考え込むこともあるかもしれません。

本講義では、思春期の心の発達という視点から、友人関係について考えていきます。

25

見えてる?見えてない? 普段気づかない心の仕組みを解き明かす

藤木 晶子 (社会福祉学部准教授)

私たちは、毎日「モノを見て」暮らしています。朝起きたら、鏡で自分の顔を見る人もいるでしょう。学校に来たら、教科書を見る人もいるでしょう。このように色々なモノを見ながら、とくに不自由なく暮らしている人がほとんどだと思います。しかし、それ故に外界の世界はすべて見えていると思いませんか？

実は、そうではないのです。私たち人間はすべてを見てはいません。それに関わらず不自由に感じることはないはずで、では、何が見えていないのか？何を見ているのか？本講義では、人間に備わる高度認知機能の一端を、実習を交えながら解き明かします。

26

見せ方ひとつでこんなに違う! ビジュアルコミュニケーションの基本

川部 大輔 (経済学部教授)

グラフィックデザインの目的は見た目をただ格好良くすることではなく、情報を速く・強く伝えるために視覚的な要素を駆使することにあります。

ビジュアルコミュニケーション (視覚伝達) の基本がわかれば、自分が伝えたいメッセージがメディア (媒体) を通して相手によりの確に届くようになります。

具体例を見ていながら、「伝わるデザイン」とはどのようなものか考えてみましょう。

27

異文化コミュニケーション入門

長谷川 典子 (文学部英文学教授)

英語ができれば国際人になれる... と誤解していませんか？この講義では異文化間で起こる誤解やずれの違いの例をもとにしながら、異文化の人々とのコミュニケーションの障壁となる要因について考えてみたいと思います。

受講生の皆さんには講義を通して、自分たちが「普通」や「常識」と考えている行動や考え方が実は日本というフィルターを通して作られたものであること、世界の人々もみな同じように自文化のフィルターを通して世界を見ていることを理解し、言葉や文化の違いを超えて様々な人々が共生している国際社会で橋渡しとして活躍できるような国際人になるために必要なことは何かについて自分なりの答えを出してもらえればと思います。

28

英語の発音法

J.W.ラケット (文学部英文学教授)

英語でコミュニケーションをするのにネイティブの発音は必要ではありません。しかし、英語の発音の基本的なスキルを身につけると、相手があなたの英語をより理解します。

この講義の目的は英語の発音の基礎を紹介することです。

Part I : 英語の母音

Part II : 英語の子音

29

アメリカ演劇の楽しみ

～ブロードウェイミュージカルとアメリカ文化～

高橋 克依 (文学部英文学教授)

ミュージカルはアメリカで発達した芸能と言われています。台詞の他に歌やダンスを取り入れた演劇で、20世紀に大いに発展を遂げ、アメリカ演劇を語る際になくてはならないものとなっています。

この講義では、日本でも多くのファンを持つブロードウェイミュージカルをとりあげて、アメリカ演劇の世界の一端にふれていただきます。大都市ニューヨークでミュージカルはどのように演じられているのか、どのように評価されているのか、など、高校生にもわかりやすく話し、英文学部の講義の一部を体験してもらいたいと思っています。

30

外国語(英語)習得を“科学”する

～習得の個人差はなぜ生まれるのか～

高野 照司 (文学部英文学教授)

日本での英語学習は、(最近始まった小学校での英語学習を除いて) 通常、中学入学時(13才)から始まり、ほぼ同じカリキュラムに従って同じ時間数の授業をこなし、高校へと継続されます。しかし、スタート地点が同じで、学習内容や時間数にそれほど大差がないのに、どうしてこれほどまでに習熟度の個人差(英語の得意・不得意)が生まれるのでしょうか。

本講義では、英語学習の個人差が生まれる要因について、「外国語習得理論」に基づいて考えます。グループ討議および発表の時間を設け、参加型の講義にしたいと思います。

31

「公園で走る」と「公園を走る」はどう違う?

～外国人に対する日本語教育入門～

柳町 智治 (文学部英文学教授)

皆さんの中には将来、海外で働きたいと思っている人もいます。外国人に対する日本語教育という仕事は、そうした夢をかなえる一つの方法です。また、日本語を教えることを通じて、日本語を見つめ直すことができるのも、日本語教育の魅力です。

さて、もし皆さんが外国人から「『公園で走る』と『公園を走る』はどう違うのか」と聞かれたら、どう答えますか。むずかしいですよね?日本語を母語として獲得すると、日頃、日本語の文法や用法を意識しませんが、日本語教師になったら、こういう質問にも答えられないといけません。

この講義では、私たちが日頃、何気なく使い分けている日本語表現を例として取りあげ、日本語教育の奥深さ、魅力について紹介します。

語学・文化

32

世界で使われている英語とは？

～「共通語としての英語」という見方～

柳町 智治 (文学部英文学科教授)

世界の人口約80億の中で英語を母語とする人はそれほど多くありません。だいたい4億人弱で、世界の人口の約5%にすぎません。現代の国際社会では政治、経済、文化等の分野で英語が共通語となっていますが、そこでは、ネイティブの人の英語ではなく、英語を第二、第三言語として使っている人たちの英語が多数派を占めています。インドの言語、中国語、アラビア語、スペイン語に影響を受けた英語など、ネイティブでない人々の英語が世界で広く使われているのです。このような見方に立つと、私たちが他国の人と交流していくために、どのように英語の学習と向き合っていくべきかということが自ずと見えてきます。

この講義では、「共通語としての英語 (English as a lingua franca)」という視点から、21世紀の英語学習について皆さんといっしょに考えていきます。

36

色々な英語の教え方

江口 均 (文学部英文学科教授)

英語の教授法というのは20世紀科学の進歩とともに様々な方法が生まれました。現在の日本でもいろいろな教え方が実践されています。しかし、自分が教えられた方法以外あまり経験するものではありません。教え方の違いはなぜ生まれるのか、その違いで英語に対する認識や技能にどのような違いが出るのか、授業の中で体験しながら考察してもらいます。

33

「若い人ほど外国語習得ははやい」は本当？

～外国語学習の「神話」に迫る～

柳町 智治 (文学部英文学科教授)

外国語学習については、科学的根拠のない「神話」が人々の間に広まっています。たとえば、「若い人ほど外国語習得ははやい」ということがよく言われますが、これも「神話」の一つです。言語研究者の間では、むしろ「older is faster」、つまり、「年令が上の人の方が習得のスピードがはやい」というのが定説になっています。また、「赤ちゃんがそうであるように、何も意識せずにただCDを聞き流すだけで外国語が習得できる」という教材の広告も見かけますが、これも研究成果に照らすと正しいとは言えません。

この講義では、言語習得についての研究成果を皆さんに紹介しながら、外国語学習をめぐる「神話」に迫っていきたいと思います。

37

いろいろな英語の教え方・学び方

江口 均 (文学部英文学科教授)

日本人は「英語ができない」とよく言われますが、決して能力がないわけではありません。しかし、教え方、学び方が間違えている、自分にあってないとすると、できないのも仕方ありません。自分にあった学び方をするには、どういふものがあるのかを知る必要があります。

この講義では、英語教授法、学習法を提示し、様々な方法があるということを知り、これまでの学習法を見直してもらう、ということを目指に行います。

34

英語を話せる力とは

江口 均 (文学部英文学科教授)

英語が話せるようになりたいと思っている日本人はたくさんいます。しかし、英語学習で成功した、と胸を張って言える人はそういません。また、たくさん単語は覚えたけど、話すとなるとダメだという人も多くいます。言葉を読む、人とコミュニケーションを取るというのは単語と文法を知っていても出来ないということです。それでは、日本人にとって英語を話せるようになるためには何を学び、何を出来るようになるべきか、コミュニケーション能力とはどういふことなのかを学んでもらうのが講義の目的です。

38

グローバル化と市民社会の役割

中地 美枝 (文学部英文学科教授)

グローバル化と聞いて、皆さんは何を想像しますか？留学や旅行のために自由に海外に行けること、インターネットを使って海外の人とすぐに連絡が取れること、世界中で日本車が走っていること、などが思い浮かぶかもしれません。これらはグローバル化の利点と考えられます。しかしグローバル化は貧富の差の拡大、文化の衝突、地方の文化・言語・風習の消滅などの様々な問題も引き起こしています。

市民社会の活動の多くは、グローバル化がもたらす負の影響の改善を目指すものです。本講義では、グローバル化の性質を理解することと併せて、市民社会の活動がどのようにその問題の改善を図ろうとしているのかを、具体的な事例に基づき考えます。

35

英語を英語らしく話そう！

江口 均 (文学部英文学科教授)

英語を英語らしく話すということは一つ一つの音の出し方を正確に学び実践するというのも大切ですが、文やフレーズを固まりとして捉えることも大切です。また、何となくこんな感じと言うような捉え方も大切です。また、外国語の発音を覚えるには今の自分の殻を打ち破ることも大切です。そのように英語を英語らしく話せるようになるコツを伝授します。

39

『マザー・グースの唄』を楽しみましょう！

島田 桂子 (文学部英文学科教授)

『マザー・グースの唄』は、数百年もの長い歴史の中で、親から子へ、子から孫へと歌い継がれてきたイギリスの伝承童謡です。『マザー・グースの唄』は、実はシェイクスピアの作品からビートルズの歌詞に至るまで、幅広く英語文化に影響を与えてきた「文化のゆりかご」なのです。

そんな『マザー・グースの唄』のいくつかを一緒に味わってみませんか？数え唄や早口ことば、なぞなぞなど、楽しくてちょっぴり不気味な内容の唄を音読しながら、ユーモア溢れるイギリス文化を味わいましょう。

40

Culture on the Internet

R. トムソン (国際学部グローバル・イノベーション学科准教授)

I research about social network sites (SNS) like Facebook, Twitter, and Line. In particular, I investigate how people from different countries behave on SNS. Did you know that Japanese people are more concerned about privacy on SNS than people from the United States? Also, people in the United States show off on SNS more than Japanese. Why is this the case? In my research I try to 1) identify differences and 2) explain those differences.

44

言語の科学研究

林 晋太郎 (文学部英文学科専任講師)

大学では、「言語学」という学問と触れる機会がありますが、みなさんは「言語」や「ことば」の研究と聞いて、何を連想するでしょうか。中学や高校で学ぶ「国語」や、外国語学習としての「語学」と言語学は、名前こそ似ていますが、実は同じではありません。

この講義では、言語学が扱い、答えようとしている問いや、言語学で用いられる研究方法を取り上げて、大学に入学するまでは学ぶ機会のない言語学という学問分野について紹介します。

41

第二言語習得研究に基づく英語学習法

沢谷 佑輔 (経済学部准教授)

どのように第二言語 (外国語) が身についていくのか、そしてどのような学習方法が効果的かを研究する分野として第二言語習得論というものがあります。この分野で多くの研究者が示してきた研究の成果は、私たちがいかに効率的に英語を学習できるかに関して多くのヒントを与えてくれています。

本講義では、日頃の英語学習に対してみなさんが抱えているかもしれない疑問やよく聞く噂が正しいのかを第二言語習得論で明らかにされている研究成果を用い、できるものは実際に体験してもらいながら一緒に考えていきます。これを期に日頃の自分の英語の学習方法を見直してみましよう。

45

中国語に親しもう!

山本 範子 (文学部教授)

日本の漢字とは異なる中国語。「新聞」は中国語では「ニュース」の意味です。発音や日中比較などを通して、中国語に触れてみましょう。簡単なあいさつや歌も練習します。

42

観光ホスピタリティ産業で英語を使って働く!

森越 京子 (国際学部グローバル・イノベーション学科教授)

英語は、コミュニケーションのツール (道具) と言われて何年もたちますが、英語は、私たちの視野を広げ、様々な国々や文化を理解し、多様な人々とつながるために大切なものです。また、英語力は、仕事にもいろいろチャンスをもたらします。

この講義では、将来の仕事と英語力について、観光ホスピタリティ産業で必要とされている英語について学びます。

46

中国古典文学<萌え>の世界

山本 範子 (文学部教授)

日本だけでなく、中国にも<萌え>があります。古典文学における<萌え>のツボって? 様々な小説を紹介しながら、現代にも通じる中国古典文学の面白さを考えていきます。

43

語彙の重要性と効果的な語彙力向上法を探る

H. トムソン (文学部英文学科准教授)

私たちのコミュニケーション能力は、「どれだけ言葉を知り、使いこなせるか」に大きく左右されます。本講義では、語彙がどのように理解力や表現力を支え、コミュニケーションの可能性を広げるのかを考察します。

研究に基づき、英語で最も頻繁に使われる約2000~3000語が、実用的な理解力の基盤となることを紹介するとともに、効果的な語彙学習の方法やデジタルツールを取り上げます。さらに、受講者自身がそれらの方法を実際に体験し、自分に合った学習スタイルを見つけることを目指します。

47

中国の妖怪・不思議な話

山本 範子 (文学部教授)

古来中国では、怖い話や不思議な話がたくさんありました。妖怪・化け物・幽霊...。そういったモノを通して、中国の文化を学び、現在に通じる様々なコトについて考えてみましょう。

語学・文化

48

世界一周ことばの旅

松浦 年男 (文学部教授)

外国語学習には時間をかける必要がありますが、ちょっと覗くだけなら簡単にできます。この講義では世界で話されている様々な言語の中から3つほど取り上げ、音声、文字、文法の解説を行い、簡単な練習問題に挑戦します。もちろんこの講義だけでその言語を理解することはできませんが、これらの作業の中で日本語との類似点や相違点に注意を向けることによって、言語の多様性や共通性といったものに対する理解を深めると同時に、外国語や外国語学習により馴染めるようになることでしよう。

52

日本語ウォッチングで街を行こう

田村 早苗 (文学部准教授)

街を歩くといろいろな日本語が目飛び込んできます。看板やお店のメニュー、注意書き、ポスター……わざわざ本や新聞を開かなくても、私たちの日常には日本語があふれています。中には「あれ、おかしいな?」と違和感を覚えるものも。

この講義では、街角のいろいろな「ちょっと変?」な日本語を入り口にして、日本語について考えてみます。その入り口は、日本語が持っているちょっと不思議な特徴につながっていたり、教科書には書いていない(でもみんな使いこなせる)「文法」につながっていたり、「うまく伝えるとは」という少し大きな問題につながっています。一緒に街角から日本語の世界をのぞいてみましょう。

49

日本語と外国語はどこが違う?

松浦 年男 (文学部教授)

世界には7000あまりの言語がありますが、多くの人が触れるのはほんの2~3個程度です。この7000ある言語を眺めたとき、日本語はほかの言語とどこが共通し、どこが違うのでしょうか?これを知るとは意味や音に見られる言葉のしくみ、すなわち文法に目を向けることが有効です。

この講義では様々な作業を通して文法というものを体感できるようにし、その上で日本語と外国語を比べることで、外国語の学習やより高度な日本語の運用の基礎となる「ことばに対する感覚」に気づくことを目指します。

53

考える/分かりあう ための 論理トレーニング

田村 早苗 (文学部准教授)

考えがまとまらない、伝わらない、分からない——すこし複雑な問題や内容を扱おうとすると、こんな悩みをもつことはよくあります。そんな時のガイドとして、「論理」を知っておくことが役に立ちます。論理は小難しいものではなく、何かを考えたり、考えを共有したりするときによく使う方法や、よくある間違いについてのノウハウがまとめあげられたものと見れば、誰にとっても有用なものと言えるでしょう。

本講義では、論理トレーニング入門編として、いくつかの論理クイズを考えてみたいと思います。言葉だけではなく図や絵も使って、いろいろなやり方で考えを整理し共有する方法を練習しましょう。

50

確実に伝えるための説明の技術

松浦 年男 (文学部教授)

例えばスーパーなどで買い物して店員に「有料のレジ袋にお入れしてよろしいですか」と聞かれたとき「大丈夫です」と答えたとしましょう。さて、これは「入れていい」のか「入れてはいけない」のかどちらでしょうか?私たちは何も意識しなくても話せば伝わったような気持ちになりますが、意図がうまく伝わらなかった経験は誰もが持っているでしょう。

この講義では、様々な練習問題から「通じないこと」について考えるきっかけとなることを目指します。

54

退屈な芸術?:古い彫刻を見る

遠藤 太郎 (国際学部グローバル・イノベーション学科教授)

古く、大きな美術館にはたいてい幾つか並んでいる大昔の彫刻達。色鮮やかで美しい絵画と比べ、今ひとつ取っつきにくい全裸や半裸の石像達は、一体、見る人達に何を訴えかけているのでしょうか?

どれもこれも似たように見える彫刻達ですが、そのポーズ、表情、身なりを分析していくと、幾つかのパターンを見つけることができます。そして、それらのパターンを通して、時代毎の美意識や社会背景の違いを明らかにすることができます。

退屈だった彫刻コーナーを、新しい眼で見直してみませんか?

51

“伝わらない”は誰のせい? —ことばのバリアフリーを考える

松浦 年男 (文学部教授)

日本にいる人みんなが「日本語」を十分に分かるわけではありません。こう言うと外国にルーツのある方の話のように思えます。しかし、それだけでなく漢字を中心に語彙が未発達な小学校低学年くらいまでの児童、自分にとって必要な新語の知識が追いつかない高齢者、日本語とは違う体系の日本手話を使うろう者など、日本には様々な「言語弱者」がいます。

この講義ではこうした言語弱者の現状を紹介すると同時に、実際に「多くの人にとって分かりやすい日本語」を作る作業を通してことばのバリアフリーに対する意識を育てると同時に、「説明」というものを考えなおすきっかけに繋がります。

55

くらべて観れば:西洋建築と 日本建築の鑑賞法

遠藤 太郎 (国際学部グローバル・イノベーション学科教授)

皆さんは旅へ出た時、何を観るでしょうか。自然の風景やその町のお祭り、博物館や美術館を観ることも多いでしょう。それと同時に、その町の歴史的な建物を見ることも多いと思います。建物や町並みは、移動可能な絵画や彫刻、イベント等とは異なり、その場に行かないと経験できないものだからです。

本講義では、そのような歴史的な建物の鑑賞の仕方を、西洋と日本のスタイルの違いに着目しながら学びます。さらに、建物の形の違いに現れた、西洋と日本の生活の違い、美意識の違いも学びます。

56

モンゴル遊牧民のスマホ利用

～文化人類学で学ぶ移動～

風戸 真理 (国際学部准教授)

モンゴル国には、家畜が食べる草を求めて季節ごとに引っ越ししながら暮らす遊牧民がいます。

この講義ではモンゴル遊牧民がおこなう多様な移動を分析します。国内移動としては、季節移動に加えて、日々の用事、子どもの通学、旅行などがあります。国外移動としては、彼らは電車に乗って中国に買い物に行ったり、留学・就労のために日本・韓国・ドイツ・スイスに移住したりしています。また、彼らの移動はスマートフォンに支えられています。電波状況が必ずしもよくない草原でのスマホ利用の工夫や、SNS利用の特徴を紹介します。

文化人類学というのは、このような異文化の背景をなす地域独自の社会・経済のあり方を理解し、その上で私たち自身の社会を見直し、相対化していく学問です。

57

豊かな国で なぜ子供の貧困率が高いのか

K. U. ネンシュティール (社会福祉学部社会福祉学科教授)

現在多くの OECD 加盟国において子供の貧困率が上がる傾向があり、日本もその例外ではありません。その背景も、多かれ少なかれどこでもほぼ同じで、主に非正規雇用の拡大と離婚の増加を背景に貧富の格差が広がる傾向が強まっています。国によってかなり異なるのは、それに対する社会政策です。

本講義では、非正規雇用の拡大などの背景、子供の貧困と高齢者の貧困との関係、貧困連鎖のメカニズム等についてわかりやすく分析・説明します。

58

「環境問題と社会福祉」

K. U. ネンシュティール (社会福祉学部社会福祉学科教授)

地球温暖化に代表される環境問題は近年、議論されることが多くなりました。ゴミや排気ガスについては、私たちの日常生活との関連性が明らかですが、環境問題として意識されているものと社会福祉との関連性はそうでもないと思われる。しかし、国内外で一般的に傷つきやすい (vulnerable) と思われる人々、つまり経済的立場、健康状態・年齢、教育機会の不足などの理由で「社会的弱者」とされる人々は、環境悪化の影響を受けやすい状況におかれています。その背景と根拠を明らかにしていきたいと思います。

59

「現代社会とジェンダー」

K. U. ネンシュティール (社会福祉学部社会福祉学科教授)

近年、「ジェンダー問題」は SDGs の関連でも日本で特に注目されるようになりましたが、「ジェンダー」は「女性の不利」に関する話であると思われがちの傾向が相変わらず続いています。しかし、「ジェンダー」とはそれを中心的に指すものではありません。男性が非常に不利になっているところもありますし、また、あらゆる性的マイノリティが差別される例が多岐にわたります。ジェンダー化された社会の特徴を、具体例によって皆さんと一緒に確認した上で、ジェンダーの再生産のメカニズムと、ジェンダー意識の根拠について共に検討していきたいと思います。

60

「世代間不公平」は(なぜ)問題か

K. U. ネンシュティール (社会福祉学部社会福祉学科教授)

少子高齢化が進むにつれ、若い世代の負担 — 特に年金、医療費などの社会保障費という形での経済的負担、そして介護などのサービスという形での物理的負担 — の一層の増大が多く話題になっています。従来は、親が子供を育てるために負った経済的・物理的な負担の「お返し」として、子供が大人になってから高齢の親 (世代) をサポートするということが、「自然な」ものとして世代間公平と見なされてきました。この定型の崩れをもって「世代間不公平」として問題にすべきかどうか、また、問題にするならばどの観点から「問題」であると言えるのかについて、考えてみます。

61

戦争の関連で社会福祉ができること

K. U. ネンシュティール (社会福祉学部社会福祉学科教授)

戦争が起きた際の社会福祉の課題は何かと聞かれれば、子供や高齢者を守る、被害を受けた人々を物質的・精神的にサポートをするということが直ぐに思い浮かびます。しかし、それだけではありません。1968年に開催された国連国際会議において、社会福祉は平和の保障の手段と位置付けられています。戦争は人間を少なくとも二つの集団に分け相手側のデ・パワーメントを目指すものであるのに対し、社会福祉は人間の共通性に基づいて可能な限り多くの人のウェルビーイングやエン・パワーメント、相互の助け合いやサポートを目的としています。この矛盾・対照性の観点から、戦争に直面する社会福祉の課題を皆さんと一緒に改めて考えたいと思います。

62

日本の医療制度—どうなっているの? これからどうなるの?

安部 雅仁 (経済学部経済学科教授)

日本では、1961年に「国民皆保険」が導入されました。これにより「受診機会の平等」が基本的には保証され、長寿社会や長い健康寿命、低い乳児死亡率といった点で一定の成果も得られています (海外からも高く評価されています)。一方、医療費が増加する中で医療保険財政の赤字が拡大し、制度の持続 (可能) 性が問われています。主な検討課題は、長い平均在院日数、高額な薬剤費と医療機器、医師・医療機関の地域間格差、高齢者医療費の財源調達にあります。少子高齢化と経済の低成長が長期化する現代において、医療制度改革は重要課題の一つになっています。

この講義では、日本の医療制度の内容と課題について分かりやすく解説します!

63

社会と社会福祉

佐橋 克彦 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

「福祉」は単なる思いやりや、やさしさだけで語れるものでしょうか。確かにそれらは福祉を構成する一部ですが、現代社会における「社会福祉」は政治や経済との関係を抜きにして理解することは難しいです。

本講義では社会福祉の前段階である慈善や、救済の限界などに触れつつ、わが国における社会福祉の成立を整理します。社会とは一体何者なのか、そして「社会」福祉の意味や現代におけるその存在意義を社会福祉制度の概要や社会福祉援助の特質を踏まえて考えてみます。

福祉・健康

64

社会福祉学への招待

～理想の暮らしと社会の姿を考える科学～

伊藤 新一郎 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

一般に、社会福祉という言葉からは「介護」が連想されることが多いですが、「社会福祉＝直接的な支援＝介護」ではありません。社会福祉学は「人と社会の幸福 (well-being)」について政策と実践の両面から探求する科学です。その対象は個人、家族、集団のみならず、地域、社会、そして世界までを含みつつ、人々の生活問題や国内外の社会問題の解決を志向する実践的な学びを特長としています。社会福祉は政治、経済、社会の様々な領域と深い関連を持つ「社会の姿を映す鏡」であり、「私たちの未来」を考えるための重要な視点の一つです。

本講義では、理想の暮らしと社会の姿を考える社会福祉学の学問特性 (応用科学・課題解決型)、政策と実践の連関性、学んだ後の進路の多様性 (活かせる仕事の豊富さ) についてお話します。

68

少子化の理由はコレ! じゃあどうすれば?

伊藤 新一郎 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

日本の少子化は 1980 年代後半から政策課題として認識され、政府による「少子化対策」がスタートしてから 30 年以上が経過しました。しかしながら、今日において少子化に歯止めはかかっておらず、当初の推計よりも早いテンポで少子化が進んでいます。

本講義では、少子化の進行にはどのようなことが関係しているのか、これから採るべき少子化への対応で効果が期待できる施策は何かについて紹介し、その実現可能性や条件について考えます。

65

幸福は何によって決まるのか

～世界幸福度ランキングを手がかりに～

伊藤 新一郎 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

毎年 3 月に、国連と米国の大学が共同で世界幸福度ランキングを発表しています。日本の順位は先進 7 カ国 (G7) で最低です。なぜこのような結果になっているのでしょうか? 日本は GDP (国内総生産) では世界第 3 位ですが、それが必ずしも高い幸福度の実現には寄与していないことがわかります。一方で、西欧や北欧の国々の多くは、(GDP では日本より下位でも) 幸福度において日本よりも高い順位になっています。

本講義では、諸外国と日本の「幸福度」に関する国際的なデータを手がかりとしながら「幸福の構成条件」について考えます。

69

福祉は“恥ずかしい”?

松岡 是伸 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

福祉制度を利用することは“恥ずかしい”のか?

自分自身や他者からこんな思いを伺い知ったことはないでしょうか。

本講義では、福祉制度を利用することで感じる恥ずかしさとは何かについて解説を踏まえ、みなさんと考えていきます。同時に、福祉制度を利用する人々を他者や地域、社会はどのように見て、感じているかについても考えていきたいと思います。これらを通じて、福祉制度や相談支援におけるスティグマ (恥辱感) や偏見、差別等について理解を深めていきたいと思います。

66

多文化共生と社会福祉

～日本の現在と未来～

伊藤 新一郎 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

グローバル化が進んだ現代社会では、海外から多くの人々が日本を訪れており、旅行 (インバウンド)、留学、就労などその目的も多様です。それは、日本とは異なる言語、文化、生活習慣、宗教などを背景とした人々を受け入れ、尊重する社会の構築・実現を必要とします。今日では「多文化共生」という言葉も頻繁に使われるようになりましたが、日本において十分に実現されているかといえば、必ずしもそうではありません。そして、これは「社会福祉」とも深い繋がりがあります。

本講義では、社会福祉の視点から日本における「多文化共生」の現在と未来について考えます。

70

現代日本を蝕む貧困

松岡 是伸 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

みなさんは「貧困」についてどのように理解しているのでしょうか。衣食住に欠如する状況のことでしょうか。確かに衣食住に欠く状態は貧困であるとも言えます。しかし私たちはそのような貧困にある人々を街中や通学路、知り合いの中などで出会うでしょうか。もしかしたら我々がわからないだけで既に出会っているかもしれません。

そこで本講義では現代日本を蝕む貧困について理解を深め、それに抗する人々や専門職、制度等について言及し、みなさんと一緒に考えていきたいと思います。

67

現代における幸福(well-being)論

～SDGsと社会福祉から考える～

伊藤 新一郎 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

私たちの誰もが「幸せになりたい」と願う一方、「幸せのかたち」は多様です。これは「幸せの条件には個人差がある」ことを意味します。しかし、万人に共通する「幸せの条件」があるとすれば、それは何でしょうか? 2030 年に向けて世界が取り組んでいる SDGs (持続可能な開発目標) は、世界の人々にとっての「幸せ」を希求するプロジェクトと言っても過言ではありません。

本講義では、現代における幸福 (well-being) 論について、SDGs と社会福祉のつながりを踏まえながら考察することにより、「すべての人々にとって共通する幸せのかたち」について考えます。

71

ソーシャルワーカーの専門性の 基礎を体験しよう。

松岡 是伸 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

ソーシャルワーカーの専門性に必要な知識・スキル、倫理について演習を通じて体験的に習得してみましょう。困り感を抱える人々に対する相談支援をするための自己理解や言葉かけ、ソーシャルワーカーの考え方の基礎を習得していきます。

72

地域をデザインするとは？

～地域デザインとウェルビーイング～

松岡 是伸 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

地域をデザインすると聞くと、都市計画や構造物等のイメージが浮かんできます。それらも含め地域デザインは、地域や人々の暮らし・つながりをどのように豊かにしていくかを考えます。地域で人々が集い、住まい、ウェルビーイングが満たされた地域や暮らしをどのように実現するかについて、地域デザインという点から一緒に学んでいきましょう。

76

少子高齢化×人口減少=日本の将来

～どんな地域になるの？どう生活するの？～

畑 亮輔 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

日本の中で「少子高齢化」や「人口減少」という言葉はよく聞かれますが、それらの具体的な問題についてはなかなか見えてきません。それは、「少子高齢化」や「人口減少」という問題が、日本という大きな規模では分かりにくいということでもあります。つまり、本来的にはそのような問題は、人々が生活をしている地域規模で考える必要があります。

この講義では、皆さんが実際に生活をしている地域に焦点を当てながら、「少子高齢化」と「人口減少」の現状を確認するとともに、今後の予測についても展望しながら、若い人も高齢者も幸せに暮らしていくためにはどうすればよいのかということを考えてみたいと思います。

73

現代における貧困とSDGsを 考えてみる

松岡 是伸 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

世界には、約10人に1人が絶対的貧困にあるといわれています。日本でも7人に1人が相対的貧困にあります。単に貧困といってもお金（経済的困窮）のみならず、教育や健康などあらゆる格差、社会的排除と関連しています。そこでSDGsの目標のひとつに「貧困をなくそう」があります。

本講義では貧困問題とは何かを出発点として、SDGsについて一緒に考えていきたいと思います。

77

体力向上と日常生活習慣

星野 宏司 (社会福祉学部教授)

体力や健康づくりの基本は、食事、運動、休養が3本柱です。その中で、食事はバランスの良い食事を規則正しく摂取することです。特にトレーニング後の食事は糖質の補給はもとより、タンパク質の摂取が重要です。運動は、強度、種類、時間、頻度を考えて実施計画を立てなければなりません。休養は、睡眠と筋肉及び精神的緊張をリラクゼーションすることです。

このような内容を易しく講義します。

74

障害者福祉の考え方

田中 耕一郎 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

障害者福祉の基本理念として、「ノーマライゼーション」と「社会モデル」の考え方を解説します。「障害者の生きづらさ」の原因を社会の中に見出してゆこうとするこの二つの考え方によって、障害者福祉の法律や制度、障害者支援の方法や内容がどのように変化してきたのか、また、今後、障害者が市民としてのさまざまな権利を保障され、市民にふさわしい社会生活をおくるためには何が必要なのか、という点について考えたいと思います。

78

ケアすること されること

藤原 里佐 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

自分があかちゃんだった時のことを覚えていますか？？？
家族の人から、あかちゃんのころの様子を聞いたことがありますか。
人は生まれてからしばらくの間、日常生活の全てにわたって、ケアをうけています。寝返りも、排泄も、食事も、着替えも誰かの手によってなされているのです。

そして、人生の最期においても、人は多かれ少なかれ、医療や介護のケアを必要とします。

元気で、なんでも自分の力でできるときには忘れがちな「ケア」について、それを支える側、必要とする側、両方の視点から考えてみたいと思います。

75

こころの病(精神疾患)を理解する

永井 順子 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

こころの病(精神疾患)は、以前よりも私たちの生活のなかで身近な病気となっていますが、それでも誤解や偏見が根強くあります。精神疾患は若い世代から高齢者まで、人生のさまざまな段階で直面する可能性のある病気であり、病気や治療、福祉サービスについて知っておく意義があるでしょう。

本講義ではいくつかの精神疾患の特徴などを紹介し、病気について知っていただくとともに、病気に対する誤解や偏見があるのは何故かを一緒に考えていきたいと思います。

79

子どもは誰のもの？

藤原 里佐 (社会福祉学部社会福祉学科教授)

子どもは誰のもの？何才までが子どもなのでしょう？
子どもは出自を選ぶことができません。「どこの家に生まれるたいか」「誰に親になってもらいたいか」「どんな家庭環境で育ちたいか」という希望は、聞かれることはありません。それゆえに、全ての子どもが健やかにのびのびと成長するよう、社会が責任をもって、子どもを見守らなければならないのです。

残念ながら、現代社会においても、子どもの健全育成が阻害される要因があります。毎日のように報道されている「子どもの教育」「子どもの格差・貧困」「子どもの生きにくさ」等々、この世に生まれ、愛し尊ばれるべき子どもが、笑顔を失っています。子どもをとりまく社会状況の変化とその背後にある問題を一緒に学んでいきたいと思います。

経済・経営

80

サキヨミの経済学

～ゲーム理論と美人投票～

勝村 務 (経済学部経済学科教授)

他の人の行動を先読みして、自分の行動を決める。そうしたとき、わたしたちはどのように行動を決め、そしてそれはどのような結果をもたらすのでしょうか。ここに注目するのが、ゲームの理論と「ケインズの美人投票」という考え方です。

この講義では、まず前半に、ゲームの理論（合理的に行動すると?）、そして、そこから発展している行動経済学（ひとは必ずしも合理的には動けない?）が考えていることについて、ごく簡単に紹介します。

後半では、「ケインズの美人投票」を体験してもらうことを通じて、現代の社会についていっしょに考えていきます。

84

あなたの知らない世界

～職業と会計～

大原 昌明 (経済学部経営情報学科教授)

高校生が聞いたことがない学問領域のひとつが会計学でしょう。もしかすると会計という言葉も聞いたことがないかもしれません。

しかし、世の中には会計にかかわる仕事がたくさんあります。しかも会計にかかわる資格検定もたくさんあります。これはなぜでしょう。

この講義では、大学卒業後の進路（職業選択）を会計学という視点から考えます。

『そんな学問があったのか』と視野を広げ、大学での学びについて考えるキッカケをつかんでもらうことがこの講義のねらいです。

81

なぜ、いま、文化経済学なのか?

勝村 務 (経済学部経済学科教授)

文化経済学は経済学の中でもまだ歴史の浅い領域です。経済と文化は相容れないもののようにも見えますし、あるいは、よく喧伝される「〇〇の経済効果」を見繕うだけの研究と思われかねません。

なぜ、いま、現代資本主義のもとで、文化経済学が注目されるのか。文化経済学はいったい何を考えようとしているのか。

夏の甲子園の名場面を入口として、現代社会における文化経済学の意義について、道内の大学で初めて「文化経済学」を開設している教員がお話します。芸術・スポーツが花開く社会は可能か、一緒に考えてまいりましょう。

85

決算書を読んでみよう

大原 昌明 (経済学部経営情報学科教授)

決算書を見る目にはふたつの側面があります。ひとつは複式簿記に基づいて適正な決算書を作成することです。いわば決算書を「作成者の目」で見ているといえます。もうひとつの目的は決算書を「利用者の目」で見ることです。これは財務諸表分析や経営分析といわれ、ビジネス社会ではとても重要になっています。

講義では製造業と情報通信業が公表している決算書を用いて比率計算をしてもらい、決算書から何を読み取ることができるのかを一緒に考えます。(学年は問いませんが簿記学習者向け)

82

経済学史入門

楠木 敦 (経済学部経済学科准教授)

この講義では経済学史という学問分野の意義の一端を紹介したいと思います。経済学史とは、「経済学」の歴史を研究する学問分野です。ひとくちに経済学と言っても、さまざまな専門分野から構成されており、多様な考え方が混在しています。それゆえに、経済学とはどのような学問であるかということについても紹介することができます。

この講義が、高校生のみなさんにとって、経済学という学問に興味を抱ききっかけになればと思います。

86

経済学と経営学、何が違うの?

大原 昌明 (経済学部経営情報学科教授)

「将来、〇〇になりたいので大学では経済学部に進学したい」という方は多いと思います。ですが経営学部という学部もありますし、隣接学部として商学部という学部もあります。

ここで問題です。「経済学と経営学の違いを説明できますか?」

この講義では、経済学や経営学について、経済学部でも経営学部でも学ぶ機会がある会計学の観点から眺めることを通じて考えます。この講義を聞いてスッキリとして経済学部での学びに備えましょう。

83

牛丼とハンバーガー、どちらがお好き

～経営と会計の味な話～

大原 昌明 (経済学部経営情報学科教授)

「100円ハンバーガーは、いくらで作っているのか」、あるいは「本当に会社は儲かっているのか」を考えたことがありますか?

食べ物の値段には、用意周到な企業戦略が隠されています。この講義では、普段我々が口にしている食べ物の値段がどんな風に決められているかを、会計（製品原価）の観点から紹介します。そしてそこに隠されている企業戦略とはいったい何かを皆さんと一緒に考えます。

この講義を聴くと、絶対友達に自慢したくなりますよ。

87

コンビニを通して、購買心理と店内の工夫を探る

鈴木 克典 (経済学部経営情報学科教授)

コンビニエンスストアは、比較的狭い売場面積にもかかわらず、食料品や日用雑貨を中心に数千種類にも及ぶ商品が取り揃えられています。これらの商品は、種類別にまとめてレイアウトされていますが、適当に配置されているわけではありません。チェーン店によりそれぞれ特徴もありますが、商品のレイアウト（配置・並べ方など）については、来店客が買物をしやすいように、心理や移動の特徴に基づいた様々な工夫を行っています。

この講義では、コンビニの売場を通して、来店客の買物の際の心理・行動分析とそれに伴うお店の工夫について、いくつかのわかりやすい視点から説明いたします。

88

コンビニ大解剖!

～商品と歴史について探る～

鈴木 克典 (経済学部経営情報学科教授)

皆さんは、コンビニに何を買いに行きますか？コンビニは、その名称にも表れているように、日常生活における“便利な”お店として、私たちの周辺に多く存在しています。このようにコンビニ店舗数が増え、大きく発展してきた大きな理由の1つに、近隣（通学途中なども含む）のお客のニーズを踏まえた商品やサービスを上手に取り入れてきたことが挙げられます。

この講義では、コンビニの定義（特徴）や生まれた経緯・成り立ちとともに、商品構成（何を買うのか？）に焦点を当て、発展してきた要因・理由について探ってみます。また、コンビニの特徴や思い（ネーミングやロゴ〈形・色等〉にもその秘密が隠されています）、歴史についても紹介します。

89

人の移動と お店の立地・数の関係について探る

鈴木 克典 (経済学部経営情報学科教授)

現在、日本国内には非常に多くのコンビニが存在し、場所によっては同じチェーン店が近接して立地しています。どうしてこのように多くのコンビニが立地しているのでしょうか？これは消費者である皆さんの買物行動・移動の特性（商品の種別や価格、周辺環境&気軽に歩ける距離、行動範囲など）が大きく影響しています。そして、人の流れ（動線）にも大きく影響してきます。

本講義では、身近なコンビニを中心とし、店舗・施設の立地と人間の行動・移動の特性との関係について、実例を挙げながら探っていきたいと思います。立地について探っていきますと、まちの形成や成り立ち、広がりについても理解できるようになります。

90

私たちの身の回りに広がる ユニバーサルデザイン

鈴木 克典 (経済学部経営情報学科教授)

皆さんは、シャンプーボトルに付いている突起をご存知でしょうか？キッチンにある水栓（蛇口）の取っ手はどうして今のような形になったのでしょうか？これらは、ユニバーサルデザイン（UD）の一例です。UDはすべての人のためのデザイン、多様な人々が使いやすい工夫のことを指します。近年、このUDは、商品・サービスのみに留まらず、商業施設や交通施設（空港・駅等）、観光、防災等、広く活用されています。

本講義では、私たちの身の回りに浸透してきている様々なUDについて説明し、より使いやすく便利にする「工夫」「アイデア」について、学校内での応用も含め、皆さんと一緒に考えてみます。「気づき」が重要ポイントです！

91

お菓子プロジェクトから探る 企画プロセスの実際

鈴木 克典 (経済学部経営情報学科教授)

2019（令和元）年度に、大学生（経営情報学科3年生/当時）が複数の企業（電力会社、小売販売会社、マーケティング会社、スイーツショップ）と「異色のコラボレーション」と言われた連携を行い、「北海道おみやげお菓子 商品開発プロジェクト」に取り組みました。そして、そのプロジェクトにより新食感のスイーツ（お菓子）を生み出すことができました。

本講義では、プロジェクトによる取り組み事例（過去の他事例も含む）を紹介することにより、商品・サービスの企画・立案や購買行動・心理の分析など、実際のプロセスについて知っていただくことを目的としています。皆さんでしたら、どのようなスイーツの企画を考えるのでしょうか？

92

ブランドの生き方： 人々を幸せにする商品開発

韓 文熙 (経済学部経営情報学科教授)

現代社会は「ブランドが彩る世界」と言っても過言ではありません。

商品開発のアウトプットとしてのモノ（&サービス）を消費者の「生活世界（lifeworld）」と関連づけ、どのような価値（魅力）を共感してもらい、どのようにして消費者とブランドとの（強い）絆を構築できるか、ということについて、（日本を含めた）世界の様々なブランドの成功事例を取り上げながら、分かりやすくお伝えします。

93

「ソーシャルメディア」と 消費者行動、マーケティング

韓 文熙 (経済学部経営情報学科教授)

ソーシャルメディア（Facebook, Twitter, YouTube, Instagram, Pinterest, …）は、現代社会における消費者の生き方、購買・消費行動、および消費文化に大きな影響を与えています。本講義では、現代における消費者の【生きている世界（Lifeworld）】と【ソーシャルメディア】の本質に関する理解を深めながら、世界各国のマーケティング事例をベースに、【現代社会におけるソーシャルメディアと消費者行動、マーケティングのあり方】についてわかりやすく解説します。

94

消費者の「生きられた経験」と ブランド・マーケティング

韓 文熙 (経済学部経営情報学科教授)

消費者のニーズを満たす製品やサービスを提供し、市場における顧客の満足を勝ち得ていくことは、マーケティングの永遠のテーマといえます。それを実現していくためには、消費者の心理や購買行動、消費行動の本質（消費経験の意味、消費者インサイトなど）をより深く理解することが求められます。

本講義では、最近注目されている「現象学」、「身体化認知（Embodied Cognition）」アプローチの視点を中心として、消費者の「生きられた経験」（Lived Experience）とブランド・マーケティングについて、世界の様々なブランドの事例を取り上げながら、わかりやすく解説します。

95

消費者インサイトが生み出す マーケティングの効果

韓 文熙 (経済学部経営情報学科教授)

「消費者インサイト(consumer insight)」とは、消費者自身も気づいていない潜在ニーズ、つまり【心のホットボタン】を察知することであり、効果的なマーケティングによりそのボタンを押されると、「そう、そういうものが欲しかったんだ」と、思わず心が動いてしまいます。消費者インサイトは、消費者の潜在ニーズを捉えた製品開発（新しい市場の創造）、組織の存続と成長を支える「ブランド価値の創造」などにおいて、きわめて重要な意味をもっており

ます。本講義では、世界各国のブランド・マーケティングの事例を取り入れながら、「消費者インサイトが生み出すマーケティングの効果」について、わかりやすく解説します。

経済・経営

96

「H2Hマーケティング」と ブランド・マネジメント

韓 文熙 (経済学部経営情報学科教授)

本講義では、近年世界的に注目されている「H2Hマーケティング」の視点（S-D Logic（サービス・ドミナントロジック）、デザイン思考、デジタル化）を中心として、現代社会における市場ダイナミクスおよび消費者行動の理解、ブランド・マネジメントにおける「創造的適応」などについて、世界各国の豊富な事例を取り上げながら、わかりやすくお伝えします。

100

未来をつくる資産形成：高校生から始めるNISAとお金の学び

秋森 弘 (経済学部経済法学科教授)

若い今だからこそ資産形成について正しい知識を身につけることで、将来の人生設計を自由に描く力を得られます。

この講義では、証券アナリスト、金融経済教育推進機構（J-FLEC）認定アドバイザーでもある担当者が、高校生にもわかりやすくNISAの仕組みや資産形成の基本を解説します。

さらに、資産形成のシミュレーションを通じて、投資が未来にどのような影響を与えるかを実感していただけます。投資を難しく考える必要はありません。一步を踏み出せば、お金の学びはあなたの未来を豊かにする大きな力となります。

「お金を学ぶことは、未来の自分への贈り物」。ぜひこの講義で、人生を広げる第一歩を踏み出しましょう。

97

サービス科学と情報技術

林 秀彦 (経済学部経営情報学科教授)

私達の身の回りには様々なサービスがあります。既存のサービスに潜む問題を解決したり、新たなサービスを創出したりする取り組みが、情報技術を活用して実践されています。

それらの事例を交えてサービス科学について考えます。

- 身の回りのサービス
- サービスとは
- サービス科学について
- 情報技術による問題解決
- 問題解決型サービス科学について

101

お金の流れを知ろう！ 「金融政策のしくみ」入門

秋森 弘 (経済学部経済法学科教授)

金融政策は、私たちの生活や未来に大きく関わっています。ニュースでよく聞く「景気」や「物価」といった話題も、金融のしくみを知るとぐっと身近になります。

この講義では、高校生にもわかりやすく、金融政策がどのように私たちの生活や経済に影響を与えるのかを解説します。最新の政策例を交え、お金の流れや政府の役割を一緒に楽しく学びましょう。

金融政策を理解することで、ニュースがもっと面白くなり、社会の仕組みを考える力がつきます。この機会に、未来を支える知識を身につけてみませんか？

98

貿易はなぜ行われる？

金野 雄五 (経済学部経済学科教授)

ある国が別の国との間でモノやサービスを売買する「貿易」は、今や世界の人々が豊かな生活を送る上で欠かせないものとなっています。

この講義では、高校生にもわかりやすく、貿易や貿易政策がどのように私たちの生活や経済に影響を与えるのかを解説します。最新の事例なども交えて、世界のモノやサービスの流れ、貿易における政府の役割、国際的な貿易のルールなどについて、一緒に楽しく学びましょう。

102

「お金」になりうるモノとは

秋森 弘 (経済学部経済法学科教授)

人類は古くから、取引を円滑にするために様々な「お金」を使ってきました。香辛料や金貨から始まり、紙幣（兌換、不兌）へと形を変え、現代では仮想通貨という新しい形のお金も登場しています。

この講義では、「お金」として使用されるモノに共通する性質や、それぞれの相違点を一緒に考えていきます。なぜ特定のモノが「お金」として機能するのか、歴史や仕組みを学ぶことで、経済の基本を楽しく理解してみませんか？ お金の本質を探ることで、私たちの日常の中にある「価値」の仕組みが見えてきます。この機会に、お金の進化を通じて経済の奥深さを感じてみましょう！

99

「経済史」への招待 ～北海道の海や山を通して～

太田 仙一 (経済学部経済学科専任講師)

大学の経済学部で学ぶ学問の一つに、「経済史」というものがあります。人間が過去に行っていた経済活動の様子を学び、現代社会を考えるヒントを得るための学問です。そして、高校生の皆さんが学校で勉強している「歴史総合」や「日本史探究」「世界史探究」といった科目ともつながっているものです。

この講義では、特に明治時代に、北海道の海や山で人々が行っていた経済活動（海運業や漁業、林業など）を通して、大学で勉強する「経済史」はどんなものかを紹介します。

103

もしみんなが『ファイナンシャル・プランナー』になったら

南 ホ Chol (経済学部経済法学科准教授)

毎年50万人近くの受験者を誇る「経済分野」の「国家資格」として「ファイナンシャル・プランニング技能士」があります。ファイナンシャル・プランニング技能士は「年金」「保険」「投資」「税金」「不動産」「相続と事業継承」について理解して、お金に関する（ファイナンシャル）生涯の設計者（プランナー）になる資格なのです。ここで想像してみてください。もしみんなが「ファイナンシャル・プランナー」になったらこの世の中はどのように変わるか。

この講義では、大学の経済学部の学生が最も簡単に取得している「国家資格」の「ファイナンシャル・プランニング技能士」について紹介して、「ファイナンシャル・プランナー」になってできることについて一緒に考えます。

104

日本経済は、アメリカとどう向き合ってきたのか

南 ホチヨル (経済学部経済法学科准教授)

日本とアメリカの関係は、戦後に突然始まったものではありません。黒船来航以前の日本の世界観から、開国、近代化、戦争、戦後復興、そして現代のグローバル経済に至るまで、両国の関係は長い時間をかけて形づくられてきました。

この講義では、日本とアメリカの経済関係を歴史の流れに沿ってたどりながら、経済と政治、国際環境がどのように結びついてきたのかをわかりやすく紹介します。教科書の出来事を暗記するのではなく、「なぜその選択がなされたのか」「その結果、社会や経済はどう変わったのか」を一緒に考えます。

ニュースで見る経済や国際問題を、背景から理解する視点を身につけることが、この講義の目的です。

108

統計学はどう使われている？ (社会の中の統計学)

佐藤 和夫 (経済学部経済学科教授)

統計学はどう使われているのでしょうか。高校の数学でも、確率や統計が重視されるようになり、平均や分散、正規分布などを学びますが、これが実社会で何の役に立つのか疑問に思う人もいるかもしれません。統計学はビジネスや社会のさまざまな場面で広く用いられています。調査データの分析や効果の検証、将来の予測などにおいて、単に結果を見るだけでなく、統計的な根拠に基づいて判断することが求められます。大学における多くの研究でも同様に、データを統計学的に分析することによって、信頼できる結論を導いていきます。

本講義では、こうした具体例を通して、統計学の役割を紹介します。

105

日本の経済学者たち

山本 慎平 (経済学部経済学科准教授)

皆さんは日本語の「経済」という言葉がいつごろできたかご存知でしょうか？幕末の開国から、明治の近代化の時代にかけて、日本は西洋の学問や技術をたくさん輸入しました。経済学という学問もこの時に日本に入ってきました。当時の日本の学者たちは、西洋の経済学を学んで、それを日本の近代化に活かしたり、貧困や格差をなくそうとしたりしました。

講義では、戦前期の有名な経済学者たちを数人取りあげ、彼らが西洋の経済学をどのように学び、それを社会の改善にどのように利用したのかについて学びます。そこから現代日本の問題に対する解決策を探ってみましょう。

109

経済学で農業と食料について考えてみよう

佐藤 和夫 (経済学部経済学科教授)

私たちの社会の多くは「経済」のしくみの中で成り立っており、農業や食料も例外ではありません。経済では、直感とは逆の結果が起こることがあり、たとえば豊作なのに農家の収入が下がるといった現象も見られます。

本講義では、こうした身近な食と経済の関係を、経済学の視点からやさしく考えます。あわせて、日本の食料自給率の低さや、近年話題となったコメをめぐる問題を取り上げ、なぜ生産・価格・消費が思い通りにいかないのかを理解し、食料と社会のつながりについて考えてみます。

106

日本の社会保障(主に年金、医療、介護)を経済から考えてみよう!

安部 雅仁 (経済学部経済学科教授)

新聞やニュースでよく聞くように日本は高齢化が急速に進み、年金や医療、介護の給付費が大きく増加しています。高齢者が安心して生活する上では、これらの制度(特に財源)の維持・安定化が必要です。このためには経済成長と財政の安定化が重要になりますが、経済は長期的に停滞しており、財政赤字が拡大しています。また、少子化により生産年齢人口が減少する中で、労働者の社会保険料や租税の負担が増加しています。少子高齢社会における社会保障の制度改革は重要な課題ですが、このためには経済と財政(広くは労働力の確保を含む)を踏まえた施策が必要です。とても難しい問題ですが、分かりやすく解説します!

110

インフレーションと日本経済

渡邊 稔 (経済学部経済学科教授)

近年の日本では米や卵など「モノの値段」が上昇しております。経済全体でモノの平均的な値段は物価と呼ばれ、物価が継続的に上昇する現象はインフレーション(インフレ)と呼ばれます。インフレは我々の日常生活に様々な影響をもたらしますが、本講義では(1)インフレの種類、(2)日本でインフレが起こる背景、(3)インフレが日本経済に与える影響、(4)インフレ対策としてどのような方法が考えられるか、について理解を深めます。

107

高齢社会の福祉を経済の視点から学ぶ意義

安部 雅仁 (経済学部経済学科教授)

日本では高齢化に伴って経済・社会のあり方が大きく変わり、これに対応する人材(労働力)の育成と確保が求められています。これは福祉と医療に限らず、民間企業や公的機関も同様です。民間企業(特に住宅・リフォームや家具、薬局・製薬、旅行代理店、金融・保険、食料品、自動車、教育やファッション関係の企業)は、増加する高齢者の消費ニーズを踏まえた経営が必要とされます。国家・地方公務員も、高齢社会に即した行政サービスのセンスや能力が求められます。現代では、高齢社会の福祉を経済(高齢者の所得、消費のニーズと選択を含む)の視点から学ぶことは、就活の方向を考える上で大きな意義と可能性をもつこととなります!

111

環境保全と経済発展の両立は可能か?

藤井 康平 (経済学部経済学科准教授)

地球温暖化や自然破壊といった環境問題は、大量生産・大量消費という今日の私達の経済活動が原因で起こっています。一方で環境を守ろうとすると、資源の使用量を抑えたり、廃棄物の量を減らしたりする必要がありますので、経済成長が鈍ると言われています。このように、一方が成り立つともう一方が成り立たなくなることをトレード・オフと言います。では、環境保全と経済成長は本当にトレード・オフの関係にあるのでしょうか。

この講義では、環境経済学の視点から、環境保全と経済成長の両立の可能性について考えます。

法律

112

契約・法・北方領土

篠田 優 (経済学部経済法学科教授)

落語の三題噺みたいなテーマですが、無理なくこの三題はつながっています。どうつながっているかというところ——

- ①適法に締結された契約は法律の効力を持つ；
- ②条約は、国家間の契約である；
- ③条約のないところでの領土問題の法的解決は、甚だ困難である；
- ④日口間で北方領土問題を決する条約はない；
- ⑤ゆえに、北方領土問題を解決するには政治的知恵をしばらざるを得ない；

ということです。講義ではこの5点を膨らませながら、契約と法について考えてみたいと思います。

116

家族における平等

岩本 一郎 (経済学部経済法学科教授
国際学部グローバル・イノベーション学科教授)

憲法は、家族に関する法律は「個人の尊厳」と「両性の本質的平等」に立脚して制定されなければならないと定めています。しかし、法律の中に男女で異なる取扱いを定める法律がありました。たとえば、結婚できる年齢が男性と女性とで違いましたし、女性は男性とは違って、離婚後すぐには再婚できませんでした。ようやく令和になって、このような平等に反する取扱いは改められつつあります。それでも、両性の平等と夫婦の同権という憲法の理念は、完全には実現しているわけではありません。夫婦別姓をめぐる問題もその1つです。また、同性婚の問題も平等にかかわります。平等という観点から家族について一緒に考えてみましょう。

113

犬の権利と猫の義務

岩本 一郎 (経済学部経済法学科教授
国際学部グローバル・イノベーション学科教授)

動物にも、生きる権利がある。自由に生きる権利もあるし、虐待を受けない権利もある。♪僕らはみんな生きている～、生きているから権利があるんだ～♪冗談ではありません。

権利を研究する専門家の中には、人間以外の動物にも権利があると大まじめに主張する人たちがいるのです。ただし、ここでいう権利は、法に基づく権利ではなく、道徳に由来する権利のことです。

動物にも権利があるとすれば、私たちの日常生活は、一変するでしょう。スポーツとしてハンティングを行うことももちろん、鶏を狭い小屋に押し込めて飼育することも、犬や猫を去勢することも、みんな動物に対する権利侵害ということになります。

動物にも権利はあるという問題は、人間にだけ権利があるのはなぜかという問題と表裏をなす問題です。常識を疑い、眼鏡を逆さまにかけることから見えてくる真実もあります。さあ、一緒に考えてみましょう。

117

18歳の選挙権

岩本 一郎 (経済学部経済法学科教授
国際学部グローバル・イノベーション学科教授)

選挙に関する法律である公職選挙法が改正されて、選挙で投票できる年齢が18歳に引き下げられました。高校生の皆さんのなかでも、選挙権を持つ人が出てきます。また、憲法改正のための国民投票に参加できる年齢も18歳です。18歳は大人、それとも子ども？投票できる年齢が18歳に引き下げられたことをうけて、高校生の皆さんは、主権者として政治にどのようにかかわっていけばよいのでしょうか。政治について考えることは、決して難しいことではありません。日常の問題を通して、選挙と政治について一緒に考えてみましょう。

114

あなたは覗かれている

～プライバシーの危機～

岩本 一郎 (経済学部経済法学科教授
国際学部グローバル・イノベーション学科教授)

情報社会は、私たちの生活を便利なものに変えていきます。携帯電話があれば、ほとんどいつでもどこでも友だちと楽しくコミュニケーションできます。インターネットでのオンライン・ショッピングを使えば、お店に行く必要もなく、欲しいものを欲しいときに簡単に手に入れることができます。防犯カメラを取り付ければ、犯罪を未然に防ぐことができるかもしれません。でも、情報社会は監視社会でもあります。便利な道具は、使い次第で私たちの生活を丸裸にする力を持っています。

この講義では、情報社会におけるプライバシーの意義についてできるだけ易しく解説します。そして、私たち自身が、携帯電話やインターネット、防犯カメラなどの便利な道具をどうやってコントロールすべきかについてお話ししたいと思います。

118

AIと法・倫理

～私たちはAIとどうつき合うか～

岩本 一郎 (経済学部経済法学科教授
国際学部グローバル・イノベーション学科教授)

人工知能 (AI) は、私たちの生活の至るところに入り込んでいます。インターネットで本を買えば、AI は、次に読むべきオススメの本を教えてください。たくさんの情報を入力すれば、自分にピッタリの結婚相手も選んでくれます。人間の代わりに仕事も家事も、車の運転だってしてくれます。やがて、AI が組み込まれたロボットが、生身の人間に代わって戦争する時代もくるかもしれません。私たちはAI とどうつき合っていくべきなのでしょう。

この講義では法と倫理の観点から考えます。

115

デザイナー・ベビー

～魔法か、それとも悪魔の技術か？～

岩本 一郎 (経済学部経済法学科教授
国際学部グローバル・イノベーション学科教授)

親ならば、子どもに「賢くなってほしい」、「可愛くなってほしい」と願うはず。だから、親は、子どもを塾に通わせたり、きれいな服を着せたりします。ならいっそのこと、遺伝子进行操作して、自分好みの子どもを「デザイン」してはどうでしょう。

現在「ゲノム編集」という技術が開発されて、より簡単に、より正確に遺伝子进行操作することが可能になりつつあります。記憶力を高めたり、目を二重にしたり、「ガタカ」という映画を見ながら、「デザイナー・ベビー」をめぐる法や道徳の問題について一緒に考えてみましょう。

119

拷問はなぜ絶対に禁止されるのか

～国際人権法入門～

岩本 一郎 (経済学部経済法学科教授
国際学部グローバル・イノベーション学科教授)

憲法でも国際条約でも、拷問は絶対に禁止されています。しかし、テロリストが爆弾を仕掛けた場所や誘拐犯が子どもを監禁した場所を答えない場合など、他人の生命が脅かされているときでも拷問は許されないのでしょうか。拷問の問題を通して、国際人権法の意義について考えます。

120 売買契約の考え方～ローマ法編

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

日本民法の淵源は、古代ローマ法にあります。古代ローマでも、現代と同様、日常的に売買契約が行われていました。現代と違うところは、奴隷(人間)が売買契約の対象とされたこと。売買契約の対象とされた奴隷に、逃亡癖があったり、窃盗癖があった場合、その売買契約の効力はどのようになったのでしょうか。古代ローマの売買契約のルールを知ることには繋がります。

本講義では、高校生たちと一緒に、古代ローマの売買契約を素材に、法的な思考法、さらには、現代日本民法の売買契約のルールを学んでいきます。一つの講義で法的な思考法と歴史を学ぶことができるお得な講義です。講義は、グループワークで進めていきます。

121 お金の貸し借りについて～日常編

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

親子でのお金の貸し借り、友人とお金の貸し借り、など、高校生の日常でも、お金の貸し借りは、よくあることだと思います。借りた側が、借りたお金を返してくれれば、問題はありませんが、返してくれない場合、トラブルが発生します。

本講義では、お金の貸し借り契約の契約書を作成しながら、お金の貸し借りの法的な構造とその怖さ(法律面)を、高校生と一緒に考えていきたいと思っています。さらに、お金の貸し借りを通じて、法的な思考法についても、伝えることができれば、と思います。講義は、グループワークで進めていきます。

122 親子とは何か～親子法のヒューマンズム

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

近年、親子に関わる画期的な判例が多く出されています。たとえば、嫡出でない子の法定相続分に関する違憲判決や、性同一性障がいによる性別変更を受けた夫と妻の間で生まれた子の嫡出推定に関する判決などです。それらの判例を素材に、民法が予定する「親子」とは何なのか、裁判所は「親子」をどう捉えているのか、さらには、「親子」を法的にどのように考えていくべきなのか、について、高校生と一緒に、グループワークで考えていきます。各人の価値観にも関わるデリケートな問題ですが、それを敢えて考えることで、「事実」と「法(法律)」との緊張関係を伝えることができ、と考えています。講義は、グループワークで進めます。

123 災害復興法学のすすめ

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

2011年3月11日、東日本太平洋側一帯を東北地方太平洋沖地震による大津波が襲い、壊滅的な被害が生じました(東日本大震災)。ところで、北海道では、津波による災害について、北海道南西沖地震による奥尻町の津波災害の経験を有しています。奥尻町の津波からの復旧・復興においても、東日本大震災による復旧・復興と同じような法律上の問題が生じていました。

本講義で、奥尻町が、それらの法律上の問題、とくに土地問題をどのようにクリアーしていったのかについてフォローしたいと思います。奥尻町の復旧・復興の経験から学べることはたくさんあります。

124 卒業後の人生・生活を考えてみましょう

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

高校または大学を卒業したら、自分でお金を稼いで、生活していかないとなりません。卒業後、就職をして、その給料で、生活をしていくとなると、どのくらいお金がかかるのか。学生時代に、奨学金を借りていたら、その返済は…。就職後、長期休みに、海外旅行に行けるのか…などなど。就職後の給料をもとに、家計簿をつけながら、高校または大学卒業後の生活を考えていきます。そこから、皆さんが、将来、どういう仕事をしたいのか、どういう生活をしたのか、そして、どういう人生を歩んでいきたいのかなどを、皆さんと一緒に考えることができれば、と思います。

125 契約法務入門

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

売買契約書を素材にして、取引に関わる法的な思考方法と知識、そして、取引実務についても学んでいきます。

講義は、受講者とのソクラテス・メソッド(問答形式)で進めていきます。予備知識は必要ありません。受講者の常識感覚で考えて答えていただければと思います。卒業後、新社会人として取引社会に出ていく高校生や、消費者被害に備えたい一般の方にも有意義な講義です。受講者のニーズに合わせて、契約書の素材・講義の仕方をアレンジすることも可能です。

126 在学契約で考える学ぶことの意義

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

皆さん高校生が高校で学ぶことの法的な基盤には、皆さんと高校との間に在学契約が存在します。

本講義では、在学契約に基づいて、皆さんが負担する義務と、高校が負担する義務を考えていきます。例えば、皆さんは授業料を支払う義務を負担し、高校は教育をする義務を負担します。十分な教育が与えられない場合、皆さんは授業料の減額を求めることができるのでしょうか?学ぶことを在学契約として捉えることは、皆さん高校生が高校で学ぶことの意義を改めて考えるきっかけになるでしょう。講義は、ソクラテス・メソッド(問答方式)で進めていきます。

127 ネゴシエーションを体験しよう

長屋 幸世 (経済学部経済法学科教授)

もし、友達に貸したモノが壊れて返ってきたら。もし、隣の家の庭木から、大量の落ち葉が舞い落ちてきたら。皆さんは、一体どのように対応するでしょうか。紛争の種は身近な所にあります。そして、その解決方法も様々です。

この講義では、基本的な紛争解決方法であるネゴシエーション(交渉)の実践を通じて、紛争の解決を試みると共に、そこで法律がどのような役割を果たしているのかを考えます。

法律

128

お金がない!

長屋 幸世 (経済学部経済法学科教授)

お前の物は俺の物! …とはいかないのが、この世の中。借りたものはきちんと返さなければなりません。それは、お金だって同じ。この講義では、二人の登場人物による、お金の貸し借りをめぐる物語を、法律の視点から解説します。なお、ストーリーは、皆さんの選択で変わります。果たして、どんな結末が待っているのでしょうか!?

132

世界の子供たちの現状

~私たちに何ができるのだろうか~

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

私たちが住むこの世界には、経済的に豊かな国がある一方で、学校に通うことができない子ども達も数多く存在しています。この講義では、子ども兵士と呼ばれる子ども達に焦点を当てて、世界が現在抱えている貧困や紛争の問題について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

129

高校世界史から法律学への架け橋

竹田 恒規 (経済学部経済法学科専任講師)

法律学の中でも、国家権力と私たちの関係を考察する公法学(憲法・行政法など)は特に、高等学校で学習する世界史と密接な関係にあります。公法学は、近代市民革命(代表例がフランス革命)の銃声の中で生まれたのです。世界史で学習する「過去」がどのように、「現在」の国家につながっているのか。「現在」の公法学が「過去」の世界史の何を基盤にしているのか。とかく、無味乾燥な「暗記」に陥りがちな歴史の学習を、「現在」の法学が直面している課題と結びつけることで、活き活きとした学習科目へと変えるお手伝いをします。

133

アメリカやイギリスの大学での学び方

~「英語を学ぶこと」と「英語で学ぶこと」~

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

私は大学生の頃にアメリカの大学で1年間交換留学生として学び、そして大学院修士課程をイギリスの大学院で過ごしました。また、2016年度にはアメリカの大学で1年間在外研究をしました。これらの経験を踏まえて、アメリカやイギリスの大学(大学院)での学び方について話をしたいと思います。その際には、「英語を」学ぶことと「英語で」学ぶことの関係性についても皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

130

法は美しい街づくりの手助けになるのか?

竹田 恒規 (経済学部経済法学科専任講師)

法律学の中でも行政法は、私たちの日常生活と密接な関係にあります。魅力あふれる都市景観や豊かな農村風景。時には美しい景観を破壊する屋外広告物。静かな住宅街のど真ん中に突如として建設されるタワーマンション。街づくりは、法学とどのように関係しているのか。現在の法制度は美しい景観を作り出せるのか。そのようなことを身近な実例を参考に考えてみたいと思います。

134

平和学入門

~より平和な世界を「探究」する~

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

北星学園大学の海外協定校の一つであるManchester University(米国インディアナ州)は、1948年という第二次世界大戦が終結してから3年後という早い時期に、世界で初めて学部レベルで平和学専攻を設けたことで知られています。同大学のプログラムは、その後平和や紛争に関するプログラムを設けた世界の諸大学に大きな影響を与えました。皆さんとともに、地球的問題群と呼ばれる私たちが直面する世界の諸課題について、一緒に考えてみたいと思います。

国際関係

131

平和構築とは何か

野本 啓介 (経済学部経済学科准教授)

平和構築というのは耳慣れない言葉かもしれませんが、戦争・紛争・大災害などによって滅茶苦茶になってしまった国・地域を立て直していくための総合的な活動・支援を表します。世界中で紛争などが起こり多くの人が苦しんでいます。紛争などが終わってもすぐに平和な暮らしが戻ってくるわけではありません。こうした国々では、物や施設が壊れたり失われたりするだけでなく、政治・経済・社会の仕組みやルール(目に見えないもの)が壊れたり失われたりしており、これが復興の大きな障害となっています。

この講義では、紛争などの現状はどうか、紛争後の国・地域の状況はどうか、平和構築ではどのような活動や支援が行われているのか、社会のルールが失われるとどのように大変なのか、などについてお話しします。

135

チョコレートが食べられなくなる日

:世界的なカカオ豆価格の値上がりとインドネシアの生産農家から考える

浦野 真理子 (経済学部経済学科教授)

チョコレートが値上がりが続いています。世界的な需要の高まり、異常気象、病虫害のほかに、世界的にカカオ豆生産を担っている小規模農家が、より高い収入が得られるアブラヤシに転作していることが、価格の値上がりを招いています。このままでは、私たちが気軽に食べているチョコレートが高級品となって食べられなくなる日が来るかもしれません。

この講義では、世界第三位のカカオ豆生産国であるインドネシアの農家の状況から、開発途上国農民の貧困解決とおいしいチョコレートの持続的生産の関係を考えます。

136

開発途上国の経済開発と障がいを考える

浦野 真理子 (経済学部経済学科教授)

障がい者が人口に占める割合は世界中でほぼ同じ10-15%とされています。しかし、貧困で医療ケアや教育が受けられない開発途上国の障がい者は、先進国に比べて大きく不利です。インドの経済学者アマルティア・センは、経済開発の目的は、増えたお金を使って、障がいのある人々も含め、皆がなりたいたい自分になる力を持つことと考えました。経済開発によって得られた財源が福祉分野に使われ障がい者が適切な支援を受ければ、社会参加して自分が望む人生を生きていくことができます。

この講義では、開発途上国の障がい者の課題を通じて、経済発展の意義について考えます。

140

世界とつながる仕事：通訳者が支えるグローバル社会

田中 直子 (国際学部グローバル・イノベーション学科准教授)

グローバル化が進む現代、通訳者は単なる言語の翻訳者ではなく、異文化の橋渡し役として重要な役割を果たしています。ビジネスや観光、国際会議など、さまざまな場面で活躍し、国際理解を深める鍵となる存在です。

この講義では、通訳の仕事や求められるスキル、グローバル社会での役割について学びます。

イノベーション・サステナビリティ

137

ホスピタリティ産業とイノベーション

森越 京子 (国際学部グローバル・イノベーション学科教授)

ホテルやレストランなどのホスピタリティ産業では、様々なイノベーションが起きています。産業における具体的なイノベーションを学び、持続可能なビジネスの発展や新しいサービスの事例を考察します。テクノロジーの活用についても探求し、ホスピタリティ産業の未来について理解を深めます。

141

Surviving and Thriving when Studying Abroad

M. コッター (国際学部グローバル・イノベーション学科准教授)

In this class, we will cover the essential do's and don'ts of studying abroad. We will also explore cultural differences, coping with homesickness, and adjusting to life with a host family. Through group discussions, we will address common challenges that may arise while studying abroad and explore ways to overcome them. The class will be conducted in English.

(リクエストに応じて日本語での実施も可能)

138

旅行者として、サステナブル・ツーリズムについて考える

森越 京子 (国際学部グローバル・イノベーション学科教授)

このワークショップでは、旅行者として、サステナブル・ツーリズムを考えます。まずは、サステナブル・ツーリズムとは何か基本的な概念を学びます。旅行者の立場から、持続可能な観光についてどのようなことができるか考えます。

142

Innovation and Life in New Zealand

M. コッター (国際学部グローバル・イノベーション学科准教授)

In this class, we will begin by exploring New Zealand's history, culture, and daily life. We will then examine areas where New Zealand has demonstrated its innovative spirit and the contributions this small country has made to the world. The class will be conducted in English.

(リクエストに応じて日本語での実施も可能)

139

クロスボーダー社会における外国語ガイドの役割

田中 直子 (国際学部グローバル・イノベーション学科准教授)

グローバル化が進む現代、外国語ガイドは単なる観光地の案内役ではなく、異文化対応力や高度なコミュニケーション能力を求められる職業となっています。特に、近年の観光ガイド研究では、地域の観光産業の発展、環境保全、旅行者の安全管理といった広範囲な役割が注目されています。

この講義では「クロスボーダー社会」という視点から、外国語ガイドが果たす国際交流の架け橋としての役割を考えます。観光を通じた多文化共生や、持続可能な観光を考えます。

143

Indigenous Perspectives on Sustainability and the SDGs

M. コッター (国際学部グローバル・イノベーション学科准教授)

In this class, we will explore the relationship between Indigenous communities and sustainability through three key questions:

1. How do the SDGs impact Indigenous people — positively or negatively?
2. What role can Indigenous knowledge and practices play in achieving sustainability?
3. How can we support and empower Indigenous communities in sustainable development?

After small group discussions, students will share their insights with the class, guided by the teacher. The class will be conducted in English.

(リクエストに応じて日本語での実施も可能)

イノベーション・サステナビリティ

144

空き家と文化財のイノベーション

遠藤 太郎 (国際学部グローバル・イノベーション学科教授)

消費者向けイノベーションのパターンの代表の一つは、「空いているものをお金に変える」です。Uberやエアビーが、まさにこれです。このパターンを文化財の保存に応用する試みが始まっています。保存が難しい、しかし文化的価値の高い住宅を宿泊施設として活かす試みです。海外とは異なり、日本では、著名な建築家達が小さな住宅を多数設計してきました。望ましいイノベーションの形について、そして、日本を「泊まれる宝石」が多数散らばった国に変えていく試みについて考えましょう。

148

ファッション×教育で社会を変える! CLOAK Project

西原 明希 (国際学部グローバル・イノベーション学科教授)

オーストラリア・シドニー大学では、多分野の横断的なアプローチで日々イノベーションが生まれています。この授業では、ファッションデザイナー集団と科学者たちがコラボレーションし、社会の科学者への偏見を壊すことに挑んだ「CLOAK」というプロジェクトについて学びます。また、北星の学生がどのようにこの活動に参加し、どのような学びを得ているかについても紹介します。

145

Internet Marketing Basics

R.トムソン (国際学部グローバル・イノベーション学科准教授)

What is the best way to sell products on the Internet? In this class, we will discuss the old and new ways of promoting products, services, and organizations using the Internet. By taking this class, you'll understand the basics of real-world SNS and social media marketing.

149

海外インターンシップの魅力 (オンライン)

西原 明希 (国際学部グローバル・イノベーション学科教授)

この講義では大学生が経験しているオンラインでのショート・インターンシップについて、その魅力を紹介します。シンガポール、マレーシア、カナダ、米国、英国、オランダなどの企業のもと大学生がどのようなショート・インターンシップを行っているのかを通し、グローバルスキルとは何かについて考えてみましょう。

146

ソーシャル・イノベーションの基礎

R.トムソン (国際学部グローバル・イノベーション学科准教授)

この社会的イノベーションの授業では、社会的課題に対する創造的な解決策を探求します。トピックには、社会問題の理解、起業家精神の役割、影響力のあるプロジェクトの設計、解決策のスケールアップ、成果の評価が含まれます。学生はケーススタディを分析し、プロジェクトベースの学習に参加し、イノベーションを通じて社会的変化を促進する戦略を開発します。

150

オンライン国際共修(COIL)で 世界とつながろう

西原 明希 (国際学部グローバル・イノベーション学科教授)

COIL (コイル) という言葉を聞いたことはありますか? Cは Collaborative (コラボレーションで行う)、Oは Online (オンラインでの)、Iは International (国際的な)、Lは Learning (学習) のことです。一言で COIL と言っても多様な手法がありますが、この講義では一つの事例として、大学生が取り組んできた一か月のインドネシアの大学生とのプロジェクトを紹介します。私たちは日本の常識や欧米の一部の国での常識を、世界の常識だと錯覚しがちです。COIL は異文化理解のヒントに溢れ、今までの常識を疑うことを教えてくれます。

147

プロジェクト型海外研修への誘い

西原 明希 (国際学部グローバル・イノベーション学科教授)

プロジェクト型海外研修を少しでも体験してみましょう。例えば北海道のお菓子を、オーストラリアの街のカフェに流通させたい場合、どのようなプロセスを経ることが必要でしょうか。現地の企業と英語で交渉するなど、実際に行う過程のシミュレーションをしてみましょう。また、このようなプロジェクトを通して、語学力の他にもどのような能力を得ることができるかについても皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

151

Fishburnersの魅力と活用方法

西原 明希 (国際学部グローバル・イノベーション学科教授)

Fishburnersは年間1000人以上の起業家を支援する、シドニーにあるグローバルコミュニティです。起業家、投資家、メンターなど、志を同じくする仲間との多様なネットワークを提供し、新しいアイデアを形にする環境が整っています。

この講義では、Fishburnersの魅力や、実際に渡航した場合の具体的な活用方法を紹介します。また、海外で挑戦する意義や起業家マインドについても一緒に考えてみましょう。世界を舞台に自分の才能を伸ばすチャンスは、意外と身近なところにあることに気づくでしょう。

152

教育学入門 ～子どもから大人まで、人の育ちを「探究」する学問の魅力とは～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

教育学は、学校教育のみを対象とした学問ではなく、例えば就学前教育や生涯教育、そして国境を越えた教育であるグローバル教育など、実に大変幅広い対象を研究する学問領域です。

この講義では、「教育とはそもそも何だろうか?」「大人になるということは何を意味するのだろうか?」という問いを共に考え、そして教育学の魅力について紹介をしたいと思います。

156

アメリカの小学校では、子どもたちはどのように学んでいるのだろうか

～English LanguageとMathを例として～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

私は2016年度にアメリカの大学で1年間在外研究をしていた際に、現地の小学校の授業を頻りに観察する機会に恵まれました。その経験を踏まえ、実際にアメリカの小学校の授業で使われていた小学校2年生のEnglish Language (日本の国語に相当) とMath (算数) の授業プリントを一緒に解いてみたいと思います。その際には、「論理的に考えることの大切さ」と「知識を身につけることの大切さ」の両方を重要視していることについても説明をしたいと思います。

153

紛争解決学入門 ～身近な人間関係から国際紛争までを「探究」する学問の魅力とは～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

紛争解決学 (Conflict Resolution) という学問領域は、1989年の冷戦終結後に急速に体系化されてきた学問領域です。最近では、特に欧米の大学院において紛争解決学で学位を取る人も出ており、北星学園大学の卒業生にもイギリスの大学院において紛争解決学で修士号を取得した人が複数います。紛争解決学には、「国際関係論や国際政治学のみならず、実は心理学やコミュニケーション学等の知見も応用されています。理論とともに現場を大切にすることの紛争解決学の全体像について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

157

国連の創設に関わったAndrew Cordierが歩んだ道とは

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

Andrew Cordier は北星学園大学の海外協定校の一つである Manchester University (米国インディアナ州) の卒業生であり、1944年にアメリカ国務省に招聘されるまでは同大学の教授をしていました。実は彼は、国連憲章の起草に関わり、1945年に国連が出来てからは職員としてその創設期を支え、ダグ・ハマショールド事務総長の補佐官をしていたこともありました。国連退職後は米国コロンビア大学の国際関係学研究科の教授 (研究科長) を経て総長も務めています。Cordier の人生を振り返り、国連の歴史について一緒に考えてみたいと思います。

154

地球的に考えて地域で行動する (Think Globally, Act Locally) ために

～高校生ができることは～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

地球的問題群 (global issues) と呼ばれる私たちが直面する諸課題には、環境や貧困などが山積しています。また、「グローバル化」という言葉も私たちの日常の中でよく聞かれるようになりました。

この講義では、「宇宙船地球号 (Spaceship the Earth)」と述べたKenneth Bouldingの言葉を紹介した上で、身近なところで出来ることを一緒に考えてみたいと思います。

158

大学の講義「国際教育論」を経験してみよう

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

私が所属する文学部心理・応用コミュニケーション学科で、私は専門科目の一つである「国際教育論」を2年後期に担当しています。この授業では、この大学の講義の一部を実際に使用している授業プリントを活用しながら、大学で教えているように皆さんにも教えることで、文字通り大学の学びを高校の教室の中で経験して頂きたいと思っています。

155

「大学の学び」の基礎となる「高校の学び」

～知識を身につける大切さ～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

この講義では、高校での学び方と大学での学び方の「違い」と「共通点」について、かつては中高の教員をしていた私の経験を踏まえた上で、皆さんに話をしたいと思います。また、大学での学びである少人数教育の「ゼミ活動」についても、私のゼミを例に取りながら紹介したいと思います。この講義のキーワードは、「知識を身につける大切さ」となります。なぜ私たちは学ぶ (学び続ける) のか、ということについて、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

159

未来を創る大切な仕事である学校教員の魅力とは

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

私は、大学教員になる前には北海道の中高で教員をしていました。そして、最近では米国インディアナ州にある Manchester Community Schools (小中高) の先生方と関わることも多く、日々子ども達のために奮闘する姿に接しては日本の学校教育のヒントを得て来ました。学校教員に限らず、どのような職業であっても仕事をすることは大変さも伴いますが、学校教員という職業には、子ども達の成長を身近に感じられるという点が、一つの魅力であると思います。学校教員になってみたいという人が増えるような講義をしていきたいと思っています。

教育

160

アメリカの「国際学」のテキストから世界情勢を探究してみよう

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

地球的問題群と訳されることが多い global issues について、アメリカで使われているテキストを参照しながら (日本語で補足説明をします)、国境を越えた諸問題について、皆さんと共に考えてみたいと思います。

161

北星学園大学の国際教育プログラムの紹介とその魅力とは

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

国際教育センター長として、北星学園大学の海外留学プログラムや海外で活躍する卒業生の紹介など、北星学園大学の「国際性」に関して具体例を交えて話をしたいと思っています。また、私の3年間に及ぶ海外生活の経験を通して、グローバル社会で生きるために必要な資質について一緒に考えていきたいと思います。

162

高校生にとって「問い」を立てて「探究」をする意義とは

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

現在は生涯学習社会とも呼ばれ、学校教育を終えても学び続ける大切さが叫ばれています。そのような時代を踏まえて、高校生の時に「問い」を立てて「探究」する意味とは何なのか、そしてそれがどのように「大学での学び」に繋がるのかということについて、地域ならびに国際社会の事例を紹介しながら皆さんとともに考えてみたいと思います。

163

多文化共生社会を「探究」する

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

最近、日本社会において「多文化共生社会」という言葉を耳にすることが増えています。また、外国につながる子ども達が学校教育の中で、時には苦勞をしながらも保護者や教職員、そして地域社会の方々の支援を受けながら前を向いて努力している話を、メディアを通してだけでなく、実際に皆さんの友達にもいるのではないのでしょうか。

この講義では、日本の社会において異文化コミュニケーションの知見を紹介しながら、受講する皆さんと一緒に未来について考えてみたいと思います。

164

大学で学ぶ意味・社会科学をとおして社会の仕組み・つながりを理解する

野本 啓介 (経済学部経済学科准教授)

大学では何を学ぶのでしょうか。学部や学科はどのように選んだらいいのでしょうか。一口に大学といっても、学問分野 (学部・学科) によって内容だけでなく、その目的なども異なります。経済学、政治学、法律学、国際関係論 (学) などの社会科学の分野では、一言で言うと社会・世の中の仕組み・つながりを理解することが目的だといえます。

この講義では、社会科学の分野について、どのようなことを何のために学ぶのか、これらを学ぶとどのような力がついて、どのような職業と結びつくのか、他の学問分野との違いは何か、などについてお話しします。

165

大学教育とは何か?

楠木 敦 (経済学部経済学科准教授)

大学教育がどういうものであるのか、またはあるべきかということに関しては、さまざまな見解があります。

この講義では、その多くの見解の中のひとつとして、経済学者としても有名なジョン・スチュアート・ミルの大学教育論を紹介し、具体的には、ミルのセント・アンドルーズ大学名誉学長就任講演を採り上げます。ミルの考える大学教育の理念に接することが、高校生のみならず、大学教育の意義を考え始めるきっかけになればと思います。

情報

166

コンビニにおける情報収集と活用方法 ～POSデータ分析によるお店づくりへの工夫～

鈴木 克典 (経済学部経営情報学科教授)

コンビニエンスストア (コンビニ) では、POS (Point Of Sales : 販売時点情報管理) システムにより、「何の商品 (サービスも含む) がいつ、いくつ売れたか」などのデータを記録・収集し、その得られたデータから様々な分析を行っています。その分析は、商品・サービスの売上集計に留まらず、他のデータ・情報と組み合わせるなど、多様な分析が行われており、来店客が買物をしやすいよう人間の心理や行動にも考慮した工夫が施されています。

本講義では、どのようなデータ・情報から、どのような工夫が行われているかの一端をご紹介します、皆さんと一緒に情報収集と活用方法について、考えてみたいと思います。

167

情報まちづくりについて考える ～情報化社会の進展と私たちの生活行動の変化～

鈴木 克典 (経済学部経営情報学科教授)

近年、スマートシティという言葉もよく耳にするようになってきましたが、ICT・デジタル技術の進展が私たちの生活行動に大きな影響・変化を与えています。そして、その影響・変化は、まちづくりにおける多様な分野に及んでおり、私たちの生活の利便性向上に役立っています。

本講義では、生活行動について、「人の移動」の視点から、交通や観光、防災・減災のテーマを中心に様々な事例を紹介し、30年後の将来のまちの姿を見据えた「ICT・デジタル技術と私たちの生活行動」について皆さんと一緒に考えてみたいと思います。また近年、非常に重要視されているユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインの視点も考慮し、講義を進めます。

168

テクノロジーは学校をどう変えるのか? ~「学び」と教育の未来~

金子 大輔 (経済学部教授)

現在、学校ではタブレット端末やオンライン教材、AIなど、さまざまなテクノロジーが利用されるようになってきました。しかし、そもそも黒板や教科書もテクノロジーの一つであり、学校教育はこれまでもテクノロジーとともに変化してきました。

本講義では、学校におけるテクノロジーの歴史を振り返るとともに、AIなどの新しい技術が「学び」をどのように変えつつあるのかを紹介いたします。また、テクノロジーによって何が可能になり、どのような課題が生まれるのかをふまえて、これからの学校や「学び」のあり方について、みなさんと一緒に考えます。

172

人は世界を「そのまま」見ていない

藤木 晶子 (社会福祉学部准教授)

私たちは、目に入った情報を「そのまま」見ていると思いがちですが、実際には脳が常に補正・変換を行っています。さらに、その補正や変換は人によって異なるため、同じスマートフォンの画面に表示される色や形、明るさといった物理的な情報でも全ての人の見え方は一致している訳ではありません。

本講義では、錯視や色の見え方の簡単な体験を通して、視覚はカメラのように正確に記録するものではなく、脳によって解釈された結果であることを紹介します。そのうえで、スマホアプリや Web 画面において、「見やすい」「わかりやすい」「間違えにくい」情報提示を行うためのコツを解説します。

169

ソーシャルメディアは私たちの世界をどう変えたのか? ~AI時代の情報との向き合い方~

金子 大輔 (経済学部教授)

LINE や Instagram, TikTok, YouTube などのソーシャルメディアは、私たちの生活に欠かせないものとなっています。これらのサービスを使うことで、私たちは世界中の人々とつながり、さまざまな情報を得ることができます。一方で、ソーシャルメディアでは、自分の興味に合った情報が優先的に表示される仕組み (アルゴリズム) が使われており、知らないうちに特定の情報に偏ってしまうことがあります。また、近年では AI によって作られたフェイク画像・動画 (ディープフェイク) など、新たな問題も生まれています。

本講義では、ソーシャルメディアの仕組みとその影響について具体例をもとに、私たちがどのような情報環境の中で生きているのかを紹介いたします。そして、情報社会において主体的に判断するために何が必要なのか、みなさんと一緒に考えます。

173

VR酔いのひみつ:ヒトの感覚特性を知ることで技術はよくなる

藤木 晶子 (社会福祉学部准教授)

VRは、ただ映像を見せる技術ではなく、人がどのように感じ、現実だと認識するかという感覚や知覚の特性を理解したうえで成り立っています。

本講義では、視覚や体の動きの感覚に注目し、なぜVRが本物のように感じられるのかを、錯覚の例を交えてわかりやすく解説します。また、VRを使うと気分が悪くなる「VR酔い」がなぜ起こるのかにも触れ、感覚のズレや脳の予測のくい違いが体にも与える影響を説明します。VRはゲームだけでなく、医療や教育、訓練など、さまざまな分野で活用されています。人の感覚・知覚特性を考えることで、安全で使いやすい技術をつくることを学びます。

170

AI(人工知能)の「心理学」

眞嶋 良全 (社会福祉学部心理学教授)

人工知能 (AI) は、思考する機械として作られ、時に人の思考を模倣し、または経験から学習することで進化してきました。現在の生成 AI は、深層学習 (ディープラーニング) をはじめとする機械学習を使い、新しいコンテンツを作成する (生成) 機械として作られています。それでは、この情報を新たに生成する機械は、人間と同等、あるいはそれ以上の知性を持っていると言えるのでしょうか? また、生成 AI との対話では、AI は人間であるユーザーとの間で実によく、相手に配慮した応答をしてくれます。このような AI の「性格」はどのように作られているのでしょうか?

この講義では、生成 AI の基本を踏まえて、人と AI の知性およびパーソナリティの違いを比較しながら、両者がどのように似ており、またどのように違うのかを考えていきます。

174

多数決の崩壊条件 ~コンドルセの陪審定理における独立性仮定の破れと集団正答率の相転移~

小野原 彩香 (国際学部准教授)

n 人の判断者がそれぞれ独立に確率 $p > 0.5$ で正答するとき、多数決の正答確率は $n \rightarrow \infty$ で 1 に収束する (コンドルセの陪審定理)。

本講義では、この定理をベルヌーイ試行の枚組みで厳密に導出したうえで、判断間に正の相関 $\rho > 0$ が導入された場合の有効標本数の縮減を示し、集団正答率が p 以下に劣化する臨界条件を導く。

独立性仮定の破れは、同調・模倣・情報カスケードとして観測されるが、本講義ではこれらを心理的現象としてではなく、結合確率分布上の構造的制約として扱う。

171

これからのICTリテラシーを考える

眞嶋 良全 (社会福祉学部心理学教授)

情報通信技術 (ICT) は、現代を生きる私たちにとって必須のものであり、ICTリテラシーを持つことはとても重要です。ところが、ある調査ではICTリテラシーが大事だと答える人が88%もいるにも関わらず、75%の人は実際にリテラシーを向上させるための取り組みをしていないと答えています。ICTリテラシーは、単にPCが使えるとか、プログラミングができるとか情報技術を使えるということの意味しません。SNSやネットにあふれる偽・誤情報を信じない、拡散しないといった情報技術を安全に活用することが重要です。

この講義では、偽・誤情報がどのように作られ、どのように拡散されるのか、それに対して私たちはどのように対抗するべきかといったことを、具体的な事例を使いながら考えていきます。

175

感情状態の幾何学

~アフェクト空間上の距離構造と基底分解~

小野原 彩香 (国際学部准教授)

感情状態を R^k 上のベクトルとして定式化する。基本感情カテゴリ $\{e_1, \dots, e_k\}$ を正規直交基底とし、任意の感情状態を $s = \sum_i \alpha_i e_i$ ($\alpha_i \geq 0$) として表現する。感情間の差異はユークリッド距離 $d(s_1, s_2) = \|s_1 - s_2\|$ として定義され、混合感情は凸結合として記述される。

本講義では、この表現の構成と、基底の選択が距離構造に与える影響を扱う。感情の現象学的妥当性は問わない。

情報

176

確率変数としての人間 ～状態空間・観測 モデル・ベイズ更新による人間記述の形式化～

小野原 彩香 (国際学部准教授)

人間の状態を確率変数 $X: \Omega \rightarrow S$ として定義し、状態空間 S 上の確率分布 $P(X \in A)$ によって記述する。観測 Y が与えられたとき、事後分布 $P(X | Y)$ はベイズの定理により更新される。

本講義では、この枚組みを用いて判断・行動・感情の記述を統一的に扱う。

モデルの不完全性は、状態空間の次元不足または観測ノイズとして定式化され、原理的境界ではなく計算・観測上の制約として位置づけられる。

177

コンピュータ動作の仕組み

佐藤 友暁 (経済学部経営情報学科教授)

現在、私達が使用しているパソコンやスマートフォンは、ノイマン型コンピュータと呼ばれ、最初のノイマン型コンピュータの設計から70年以上が経過しています。このことから明らかなように、基本的なコンピュータの動作原理はこのコンピュータの誕生時点から現在でも変わっていません。その一方、今日の機械学習のようにコンピュータで処理できることは大きく進歩しています。これはコンピュータの処理の効率化や複数の処理を可能にすることで実現可能にしました。

本講義では、コンピュータの基本的な動作の仕組みと身近な例を使用し、どのようにコンピュータが効率的に処理することを可能にしたかについてお話しします。

178

情報セキュリティ入門

佐藤 友暁 (経済学部経営情報学科教授)

情報セキュリティとは、情報の機密性、完全性、可用性を維持することです。具体的には、見られては困る情報を守ること、情報の破壊や改ざんから守ること、情報を必要とするときにその情報へのアクセスが可能であることを常に維持することです。例えば、情報の機密性を維持したい場合は、インターネットからのアクセスを行えないようにする方法がありますが、これは可用性を犠牲にします。従って、情報の機密性、完全性、可用性の3点から最適なポリシーを決める必要があります。

本講義では、身近で具体的な例を使った情報セキュリティについて考えていきます。

その他

179

困難を乗り越えて生きること

～がん体験者が教えてくれるいのちと人生～

大島 寿美子 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

2人に1人が一生のうちで一度はかかる「がん」。がんを体験した人の語りから、病いを経験するとはどういうことか、病いを乗り越えて、あるいは病いととも生きるとはどういうことか、そこから私たちがいのちや人生について何を学ぶことができるかについてお話しします。

高大ブリッジ講義(出張講義)申込書

申込日 年 月 日

送信枚数 /

高校名
連絡担当者名
TEL () — / FAX () —
MAIL @

第1希望 講義番号		講義担当教員名	
希望講義名		希望日時	第1希望 月 日()時間 : ~ :
			第2希望 月 日()時間 : ~ :
			第3希望 月 日()時間 : ~ :
受講生徒	学年	組	名

第2希望 講義番号		講義担当教員名	
希望講義名		希望日時	第1希望 月 日()時間 : ~ :
			第2希望 月 日()時間 : ~ :
			第3希望 月 日()時間 : ~ :
受講生徒	学年	組	名

第3希望 講義番号		講義担当教員名	
希望講義名		希望日時	第1希望 月 日()時間 : ~ :
			第2希望 月 日()時間 : ~ :
			第3希望 月 日()時間 : ~ :
受講生徒	学年	組	名

使用機材(ご用意いただけるものを○で囲んでください):

パソコン(パワーポイント)	プロジェクター	スクリーン	スピーカー	OHC
黒板	ホワイトボード			

その他講義展開上の留意点:

講義上の希望事項:

2 入学前教育

「学科別入学前教育の実施」

入学試験を媒介にして高校と大学の接続を考える場合に、高校における教育・学習の到達点と大学における教育・学習の出発点を滑らかに接続することの重要性が指摘されてきました。大学において期待される学習と高校までの学習のギャップを埋めるために考案されてきたのが「入学前教育」です。各大学が多様なプログラムを用意していますが、北星学園大学もまた、これまで各学科の独自の取組として、推薦入学生を中心的な対象にして実施してきました。この実績を踏まえ、本学では2008年度実施の入試結果から本格的に「高大連携プログラム」として入学前教育を実施しております。

- ① 学校推薦型・総合型選抜で入学が決定した生徒は、その時点から本学の学生であるとの捉え方で、大学との接触を図る。
- ② この接触は、大学と生徒の関係だけでなく、同時に当該高校の教員との関係を意識した形で進める。
- ③ この関係は、「大学と生徒の関係」及び「学科と生徒の関係」の二重の形で進める。

以上のような考え方で、高大連携の一貫としての「入学前教育」を実施します。なお、詳細については12月以降学校推薦型・総合型選抜合格者に提示します。

「高大連携プログラム」に関する問い合わせ・申し込み先

入試課

TEL (011) 891-2731 (代表)

FAX (011) 894-8383

MAIL nyushi@hokusei.ac.jp

案内図



交通の便

- 市営地下鉄東西線【大谷地駅】(副駅名「北星学園大学 前」)下車、一番出口を出て左手サイクリングロード通学路を研究棟(8階建)を目標に西へ徒歩5分。
- 札幌市内方面から自動車等で来学する場合、南郷通大谷地神社信号を右折し約200メートル。



札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号
TEL 011-891-2731(代表)